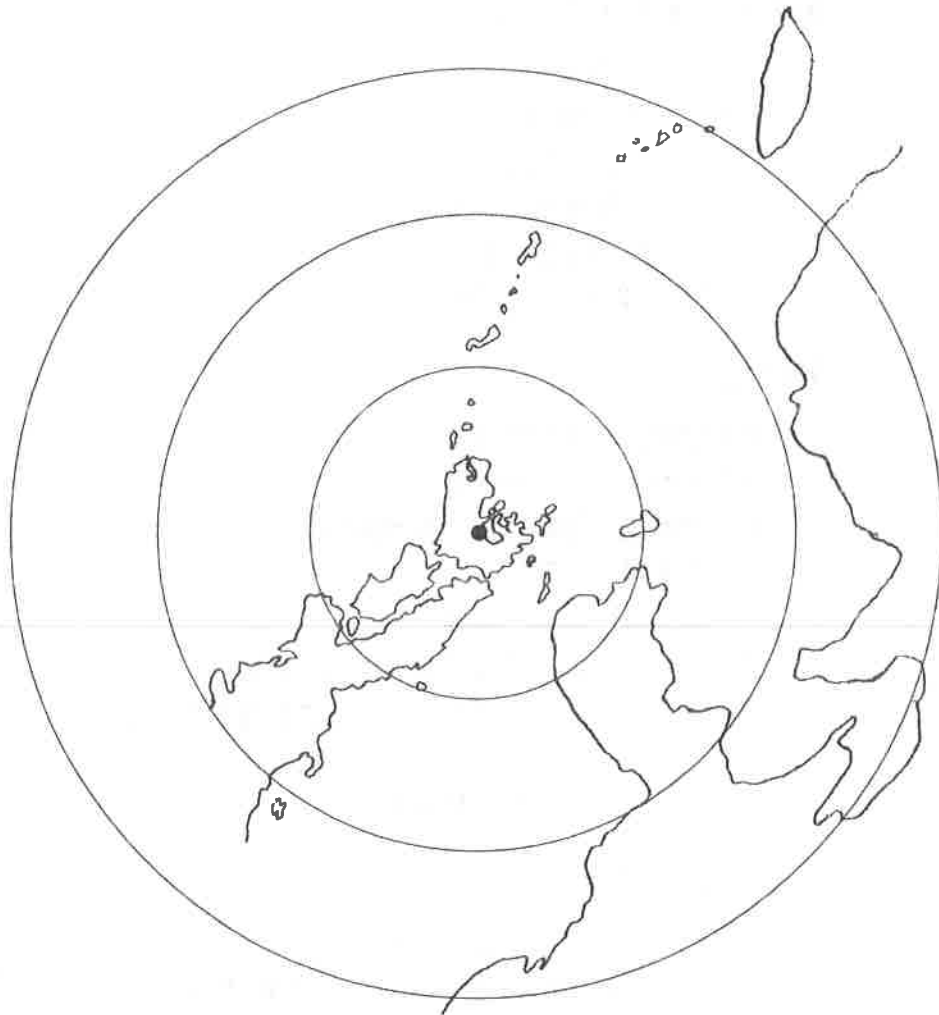


第10回

朝鮮人・中国人
強制連行・強制労働
を考える全国交流集会
in きゅうしゅう



1999年7月31日～8月1日

会場 熊本市国際交流会館

☎096-359-2020

主催

第10回朝鮮人・中国人強制連行・

強制労働を考える全国交流集会

九州実行委員会

集会日程

第1日 7月31日(土)

13:00 受付開始

14:00 開会

開会挨拶

全国世話人会代表挨拶、他

15:00 分科会 I

18:00 分科会 I 終了

19:00 第10回記念レセプション

第2日 8月1日(日)

9:10 分科会 II

10:45 閉会集会

分科会報告

次期開催地挨拶

閉会挨拶、他

13:00 フィールドワーク

分科会

第1分科会 入門講座

第2分科会 「壬辰倭乱」と現代

第3分科会 強制連行・強制労働

A会場 全国

B会場 九州・沖縄

第4分科会 戦後補償問題の課題と展望

第5分科会 調査・保存—近代遺跡調査をめぐって—

第6分科会 どう伝え、どう語り継ぐか

—運動・教育実践の交流—

フィールドワーク

Aコース・・・三井三池コース

荒尾・大牟田市にまたがる三井三池の四山・
万田・宮原坑跡を見学し大牟田駅で解散

Bコース・・・熊本近辺コース

三菱健軍航空機製作所の地下工場跡や加藤
清正ゆかりの熊本城・本妙寺を見学

参加費

一般 3,000円(資料代含む)

学生 2,000円(同)

第10回全国交流集会開催にあたって

節目ともいえる第10回目の全国交流集会を九州で開催することができたことを、たいへん嬉しく思っています。

「第10回交流集会」は「朝鮮人・中国人強制連行・強制労働」をキーワードに国籍・居住を超えた人々の集まりとして設定されています。それはこれまでの「全国集会」でも韓国などからのゲスト参加があり、事実上、日本人、在日韓国人・朝鮮人、在日中国人の共同事業として開催されてきたのを受け継いでいます。

昨年6月に呼びかけ人方式で開かれた「第1回朝鮮人・中国人強制連行・強制労働を考える九州集會一過去・現在・未来一」には九州各県からだけでなく、韓国、沖縄からも積極的な参加がありたいへんよい出会いの場になりました。この集まりは「第10回全国交流集会」九州開催を視野に入れたもので、これをバネに「第10回交流集会」実行委員会を立ち上げようという意図がありました。それは、「全国世話人会」に九州から名を連ねてきたのは熊本、福岡からの二人だけ、「全国集会」そのものへの参加経験者も数名で、九州では「全国交流集会」そのものがあまり知られていないという事情を考慮したものでした。

そのような経過で「第10回交流集会」はこれまでの各県主催ではなくて九州全体で実行委員会を取り組むことになりましたが、ほとんどの実行委員が「九州集会」あるいはその後にはじめて出会った人たちであることや地理的環境もあってお互いのコミュニケーションが不十分なまま準備が進められてきました。

実行委員会には、新ガイドライン関連法案をはじめとして盗聴法案、住民基本台帳改悪、地方分権一括法案、そして君が代・日の丸の法制化と暴走する小渕政権に対する強い批判と再びアジア民衆への抑圧者になろうとしている日本国支配層の企みを何とか阻止したいという危機感があります。それは単に日本国籍を持つ者だけの問題ではなく、かつて日本帝国主義の圧制にあえいだ在日韓国人・朝鮮人・中国人そしてアジア太平洋民衆の共同事業としてすすめる必要があると考えています。これまで強制連行・強制労働の掘り起こし、研究を地道に進めてきた人たちの努力の成果を現代の危機と結びつけ、それを私たちの未来へとつないでいきたいという強い願望があります。

本集会では、交流と意見交換を重視するために、これまでの全国交流集会では恒例となっていた記念講演をとりやめ、分科会と交流懇談会（レセプション）に時間を割くことにしました。本集会での出会いが縁となって、参加者相互の日常的な交流が始まることを期待しています。

分科会設定の特徴として、第2分科会の「壬辰倭乱と現代」があります。九州に住むものとして、400年前の朝鮮侵略と強制連行と近代の日帝による朝鮮の植民地支配とその背景の下でおこなわれた強制連行・強制労働を切り離してとらえることは出来ません。特に佐賀、熊本ではいまなお豊臣秀吉、加藤清正の朝鮮侵略が美化され生き続けている現状を看過するわけにはいきません。それは明治政府によって意識的に作り上げられたものであり、たとえ日本の教科書が「朝鮮出兵」を「朝鮮侵略」と前向きに改訂されたとしても今なお残っているものです。

実行委員会の力量不十分から、集会運営その他で不便をおかけすることも多々あると思いますが、みなさんの積極的な協力で本集会が内容の濃い集いになることを願っています。

1999年7月

「第10回朝鮮人・中国人強制連行・強制労働を考える全国交流集会 in きゅうしゅう」

九州実行委員会委員長

村田 久

目 次

日程表

ごあいさつ 第10回全国交流集会開催にあたって・・・・・・・・・・村田 久 1

目 次 2

よびかけ

- (1) 日本語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- (2) ハングル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- (3) 中国語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

全体会 7

第1分科会 入門講座

- (1) 軍国少年半世紀の告白・・・・・・・・・・朴 仁 祚 8
- (2) 近代の熊本と在住朝鮮人・・・・・・・・・・小 松 裕 9

第2分科会 「壬辰倭乱」と現代

- (1) 400年前の連行と現代・・・・・・・・・・中里 紀元 10
- (2) 加藤清正と熊本・・・・・・・・・・吉村 豊雄 11
- (3) 被差別部落加藤清正強制連行朝鮮人起源説をめぐって・・羽江 忠彦 12
- (4) 秀吉侵略の傷跡を訪ねて・・・・・・・・・・益田市の高校生たち 12
- (5) 加藤清正と新聞報道など・・・・・・・・・・金 慶 海 12

第3分科会 強制連行・強制労働

A会場 全国

- (1) 北海道・朱鞠内における強制連行・強制労働の実態と掘り起こし
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・小野寺正巳 13
- (2) 足尾銅山を始め栃木県下における朝鮮人強制連行労働の真相追跡調査の現況
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・孫 大 勇 14
- (3) 中島飛行機半田製作所等の強制労働体験者の聞き取り調査・・寺尾 光身 15

B会場 九州・沖縄

- (1) 「平和の礎」と朝鮮人戦没者・・・・・・・・・・洪 鐘 泌 16
- (2) 三池炭鉱と強制連行・・・・・・・・・・武松 輝男 17

(3) 53年後に初めて犠牲者の声/横峰鉱山中国人強制連行事件の調査	児玉 武夫	18
(4) 鹿児島島の強制連行	佐々木智憲	20
(5) 沖縄の強制連行	安仁屋政昭	23
(6) 福岡県と強制連行—行政文書から—	長澤 秀	23

第4分科会 戦後補償問題の課題と展望

(1) 問題提起	田中 宏	24
(2) 私と太平洋戦争、そして解放—治安維持法犠牲者に国家賠償を—	徐元洙	25
(3) 中国人強制連行・西松建設裁判について	中土 勝雅	26
(4) 三菱長崎裁判の状況	舟越 耿一	27
(5) 関釜裁判の状況		27
(6) 八幡製鉄の元徴用工問題をめぐって 八幡製鉄の元徴用工問題を追及する会		27
(7) 金景錫さん、金景順さん		

第5分科会 調査・保存—近代遺跡調査をめぐって—

(1) 遺跡の影に残る朝鮮人の足跡に光を!	鄭 鴻 永	28
(2) 文献資料から探す地下軍事施設		
—防衛庁防衛研究所図書館資料を中心として—	塚崎 昌之	30
(3) 馬渡朝鮮人収容所保存運動について	裴 東 録	31
(4) 長崎県・佐賀県の実態調査の経緯	柴田 利明	32

第6分科会 どう伝え、どう語り継ぐか—運動・教育実践の交流—

(1) 地域の聞き書きを語り伝えていくために		
—炭鉱とともに歩んだ大牟田近現代史の 骨格にふれる—	長谷川禎三	33
(2) 図書館の果たす役割	大原 俊秀	34
(3) 知覧特攻基地から出撃した11名の朝鮮人・韓国人特攻隊員	赤崎 盛彦	35

フィールドワーク関係資料

Aコース	36
Bコース	42

賛同団体アピール 49

賛同団体名簿 51

賛同人名簿 53

*各分科会の報告は必ずしもこの順番ではありませんので、ご注意下さい。

よびかけ

敗戦から54年。アジア太平洋戦争下の日本の戦争責任は、軍隊慰安婦、南京大虐殺など様々な問題を未解決のまま残しています。その中でも、中国人・朝鮮人の強制労働は、全国各地で見聞・記憶され、体験者も多く、日本人にとって最も身近に実感できる問題です。日本全国で、地道な事実掘り起こしがなされてきました。

1990年大韓民国盧泰愚大統領が来日したおり、朝鮮人強制連行問題がクローズ・アップされました。これがひとつのきっかけとなり、同年8月第1回全国交流集会在、体験の交流と学習を目的に名古屋市で開催されました。その後、兵庫、広島、奈良、長野、大阪、岐阜、島根、石川各府県で開催されて来ました。

本年は、初めて九州に上陸し、熊本市で開催されます。九州で本集会が開催されることには、大きな意味があります。

九州は古くから、朝鮮・中国と交流のあった地です。開催地熊本は、秀吉の朝鮮侵略時の武将加藤清正の居城のある地です。佐賀は、その本営名護屋城のある地です。長崎は、広島と共に原爆の落とされた地です。大分は、鯛生鉱山や佐賀関製錬所などに、宮崎は榎峰鉱山などに多くの朝鮮人・中国人が連れて来られ、働かされた地です。鹿児島は、多くの特攻基地のあった地です。沖縄は、唯一地上戦が戦われ、多くの戦死者・犠牲者を出した地です。福岡は、大牟田・筑豊の炭鉱を中心に約35万人の朝鮮人・中国人が強制連行されました。また、戦後は、山口県下関と共に、多くの被強制連行朝鮮人・中国人が帰国出発し、多くの日本人引揚者が帰国上陸した地です。

日本政府は、今また、朝鮮を、極東を、アジアを日本の支配下に置かんとして、新ガイドライン3法案の成立や日の丸・君が代の法制化を図ろうとしています。そして、その拠点にされつつあるのが九州です。

このような地、九州で開催される本集会は、私たちが解明してきた様々な事実をねじ曲げ続けている「自由主義史観」者たちへ多くの歴史的事実を突きつける絶好の機会です。

一方、国際労働機関が被強制連行朝鮮人・中国人・軍隊慰安婦に対する国家補償を行うよう日本政府に勧告しました。日本政府も在日朝鮮人元軍人・軍属への補償を検討すると発表しました。これは、本集会に結集された方々を中心とした地道な調査・研究・運動の成果です。

日本の戦争責任の事実解明と平和と民族友好・和解の架け橋の運動は、いよいよ重さを増しています。世界の諸国民から責任を取る国民と信頼されるようになるために、ひとつでも多くの成果をもって、1人でも多くの方が、熊本市での第10回全国交流集会に参加されることを、お待ちいたしております。

호소문

일본이 전쟁에 패한지도 어언 54년이 됩니다. 아시아태평양전쟁하, 일본이 일으킨 전쟁의 책임은 종군위안부(정신대), 남경대학살사건등 지금도 여러가지 문제가 해결되지 않은채 남아 있습니다. 이런 생활속에서 중국인·조선인들의 강제연행으로 인한 노동착취 사실이 전국 각지에서 들려오고, 몸소 체험하신분들도 많이 알려짐으로써 강제 연행이 일본인들에게 가장 민감하게 실감을 자아내었던 것입니다. 따라서 일본전역에서는 이 사실을 전적으로 밝혀내려는 작업이 꾸준히 진행되어 왔습니다.

1990년 대한민국 노태우 대통령의 방일로 인해 조선인 강제연행문제가 대두되고, 그해 8월에는 체험자를 통한 교류와 그에 따른 학습을 목적으로 나고야시에서 제1회 전국교류집회가 개최되었습니다. 그후 효고·히로시마·나라·나가노·오사카·기후·시마네·이시가와등 각 부현에서 지속적으로 집회가 개최되어 왔습니다.

반가운 사실은, 올해 처음으로 큐슈의 구마모토시에서 집회를 열게 된것입니다. 큐슈에서 본 집회를 연다는 것은 큰 의미를 지닌다고 봅니다. 그 이유는 큐슈는 옛부터 조선·중국과의 교류가 활발했던 곳으로, 이곳 구마모토는 풍신수길의 조선을 침략했을 당시 무신이었던 가동천정이 거처했던 곳이기도 합니다. 그외의 현을 살펴보면, 시가는 본영 나고야 성이 있는 곳이고, 나가사키는 히로시마와 더불어 원자폭탄을 받은 곳입니다. 오이타는 타이요우 광산과 사카노세키 제련소가, 미야자키는 마키미네 광산이 조선인·중국인들을 강제연행한 곳이며, 가고시마는 특공기지가 여기저기 설치됐던 곳입니다. 또한, 큐슈의 오키나와에서는 전투가 벌어져서 많은 희생자를 낸 곳이기도 합니다. 더구나, 후쿠오카의 오우타·치구호우의 탄광등지를 중심으로 조선인·중국인 약 35만명이 강제연행되어와 고생을 한 것은 유명한 사실입니다. 종전후 후쿠오카는 야마구치의 시모노세키와 함께 강제연행되어 피해를 본 많은 조선인·중국인들이 자국으로 귀국을 했고, 일본인 역시 이곳을 통해 귀국했습니다.

일본 정부에서는 지금도 여전히 조선·극동·크게는 아시아를 자기들 지배하에 넣고 싶어 신가이드라인 삼법안을 성립시키고, 일장기·기미가요를 법으로 정하려 하고 있습니다. 그리고 큐슈를 그 활동무대의 거점으로 삼으려 하고 있습니다.

이처럼 중대한 위치에 놓여 있는 큐슈에서 본 집회를 연다는 사실은, 한편으로「자유주의 사관」의 빼뚫어진 사상을 지닌자들에게 뼈아픈 역사적 사실을 추궁할 수 있는 절호의 찬스라고 생각됩니다.

또다른 방향에서, 국제노동기구가 일본정부에 피강제연행조선인·중국인·종군위안부를 국가차원에서 피해보상 해 줄것을 통보했습니다. 이에 따라 일본정부는 제일조선의 군인·군기관에 고용된 사람들에 대한 보상을 검토할 것을 발표했습니다. 이러한 결과는 본 집회에 소속된 분들의 열심한 노력과 조사, 꾸준한 운동의 성과라고 봅니다.

일본의 전쟁 책임에 대한 사실해명과 평화·민족의 우호·화해를 중개역할하는 우리의 이 운동은 마침내 중요한 단계에 접어들었다고 생각되어집니다. 책임을 다하는 국민으로서 세계민족의 국민들로부터 신뢰를 얻기위해서는 한가지라도 많은 성과를 거둘 필요가 있습니다.

끝으로 이번 구마모토시에서 열리는 제10회 전국교류집회에 여러분의 보다 많은 참여를 진심으로 기대합니다.

呼吁

日本战败以来五十四年，亚洲太平洋战争之间的日本的对遗留在亚洲的战争责任，例如从军慰安妇女，南京大屠杀等等问题，都不得解决地遗留下来。其中对中国和朝鲜劳工们的强制劳动，在日本全国各地已是有所闻，有记忆的。其受害者甚多，对日本人来说这应是最容易体会到的问题之一。在日本全国各地也曾进行过踏实的事实追求和调查。

一九九〇年大韩民国卢泰愚大总统访问日本的时候，使战争时强迫牵行朝鲜人的问题更加真实地重现出来。从此，同年八月以交流体验和学习为目的的第一次全国交流集会在名古屋市举行了。此后，又相继地在兵库，广岛，奈良，长野，大阪，岐阜，岛根，石川等各府县举行了。

今年，该全国交流集会第一次汇集于九州，预定在熊本市举行。该集会在九州举行是有着重大的意义的。

九州自古既是于朝鲜和中国有着密切交流的地方。而且集会举办地熊本是丰臣秀吉时代侵略朝鲜的武将加藤清正居城之地。佐贺是其本营名护屋城之所在地。长崎是跟广岛一样被投下原子弹之地。大分的鲷生矿山和佐贺关冶炼所，宫崎的楨峰矿山等等都是压制拉牵了众多朝鲜人和中国人而强行劳动之地。鹿儿岛是拥有很多特攻基地之地。冲绳是战火席卷过的唯一之地，也是战死者牺牲者众多之地。福岡以大牟田和筑丰的煤矿为中心强制拉牵了大约 35 万左右的朝鲜人和中国人。同时，与山口县下关一样，日本战败后福岡又是被强行拉牵而来的朝鲜人和中国人的回归出航之地。又是众多日本人的回国登陆之地。

日本政府至今依然企图遥控朝鲜，远东以及亚洲等地，在国内图谋通过「新方针三法案」，图谋军国主义时代以来的国旗国歌仍为今用的法制化。与此同时，将成为其据点的就是九州。

在这样的九州举行该集会，正是向一直歪曲我们阐明过的种种历史事实的「自由主义史观」者们提出更多的历史事实的最好的机会。

另外，国际劳动机构已经劝告日本政府对战前被强行拉牵的朝鲜人·中国人·从军慰安妇女等要给予一定的国家补偿。日本政府也曾发表过有关在日本的朝鲜人旧军人·旧军属的问题需要研讨的声明。这自然是以结集该集会的人士们为中心的人们所进行的踏实地调查，研究，活动的成果。

弄清过去日本的战争责任而推进世界和平，增进民族友谊，实现真的互相了解为目标的我们的桥梁运动，将愈益认为重要的。为了争取使世界各国人民相信我们是一个有责任感的民族，要不断地取得新的成果。我们衷心地期待着能有更多的人来参加在熊本市举行的第十次全国交流集会。

全体会

進行：金 聖 孝

開会挨拶 全国交流集会九州実行委員会委員長 村田 久

全国世話人会代表挨拶 飛田 雄一

全国世話人会顧問挨拶 田中 宏

アピール

韓国・太平洋戦争犠牲者遺族会 金景錫

韓國・中蘇離散家族會 金景順

韓國・明知大學 洪 鐘 泌

沖縄国際大学 安仁屋 政昭

以上、敬称略

第1分科会

入 門 講 座

司会:小松 裕

軍国少年半世紀の告白

朴 仁 祚

- ① 悩める少年時代
- ② 少年、大陸に飛翔
- ③ 九州(福岡・熊本)で猛訓練、航空部隊員となる
- ④ 曠野の満州に転属
- ⑤ 第一次神風特別攻撃隊編成に?
- ⑥ 第二次神風特別攻撃隊編成、104振武隊員となる
- ⑦ 最前線基地に向かって出発する45機
- ⑧ 奉天、ソウル宿(罹災のない朝鮮半島に疑問)
- ⑨ 郷里訪問 墜落寸前の危機 私的制裁 大邱 大田 永川
- ⑩ 青春の地熊本健軍飛行場 名士との出会いで人生が変わる 真の人間愛に包まれた
- ⑪ 特攻隊の最大の基地知覧 意外な言葉 ある家族との出会い 初めての恋
- ⑫ 生死の選択を迫られたある払暁 ある参謀の訓示後の出撃
- ⑬ 愛機故障で菊池航空廠へ 面会 超低空飛行 健軍に立ち寄り知覧へ
- ⑭ 再修理 菊池へ 人吉海軍航空隊飛行場不時着SOS 無断外出で神野中尉より制裁
姉妹の面会 知覧上空霧のため万世に超低空で着陸 收容される 宿舎飛龍荘
- ⑮ 1945年8月15日払暁の出撃 敗戦 復員 一ヶ月休養の後鹿児島へ
- ⑯ 戦後の進むべき道の選択 尹奉吉義士遺体発掘に関与
東京某学院の同窓二人に戦記を語り合う 東宝映画砧撮影所内の同好会に入会
父危篤の電報 民族意識を取り戻し在日の国語教育に 火事により全焼事件
- ⑰ 1965年炎は大きくなってくる
余暇には在日に暗葬之跡地の碑建立を訴える 血の葉
1988年尹義士遺体発掘写真公表
- ⑱ 1990年市民グループの要請 尹義士暗葬の事実と私の運動
4つの市民グループが「尹奉吉」暗葬の跡を考える会を結成 保存整備を目的に出発
結果的には全てが私の主導に
保存会の全国的規模の再組織

「尹奉吉義士は、死後、日本における遺跡地を幼い貴方に託した。義士の霊力があらゆる面で見守ってきたと見るべきである。」(韓国のある大学教授の談)

「近代の熊本と在住朝鮮人」

小松 裕

1 明治期の熊本と朝鮮の関係

- ① 「征韓論」と江華島事件
- ② 壬午軍乱と甲申政変
- ③ 日清戦争と閔妃殺害事件
- ④ 熊本県派遣朝鮮語留学生

2 肥薩線工事と朝鮮人・中国人

- ① 勅令第352号の成立
- ② 中国人労働者の移入と排斥
- ③ 朝鮮人労働者の移入とストライキ

3 「韓国併合」直後の在住朝鮮人—九州を中心に—

- ① 九州全体
- ② 長崎県と対馬
- ③ 熊本県—教師・学生・生徒

4 1920年代の熊本と在住朝鮮人

- ① 三一独立運動、関東大震災と熊本
- ② 内鮮親和会の設立
- ③ 内鮮親和会の正式発足と事業の本格的展開
- ④ 財団法人化へ
- ⑤ 「農業労働生」と鉄道工事

5 1930年代の熊本と在住朝鮮人

- ① 融和運動の発展と在住朝鮮人の特徴
- ② 第五高等学校の朝鮮人学生
- ③ 朝鮮人労働の諸相—球磨郡を中心に
- ④ 深田銅山と朝鮮人鉱夫

6 戦時下の熊本と在住朝鮮人

- ① 強制連行と熊本
- ② 健軍三菱航空機製作所と地下工場建設
- ③ 三井阿蘇鉱山と朝鮮人
- ④ 水俣と朝鮮人
- ⑤ 熊本県協和会と戦争協力

第2分科会

「壬辰倭乱」と現代

司会: 福原孝浩 中里紀元

— 第二分科会「壬辰倭乱」と現代 — 「400年前の連行と現代」

中里紀元 (唐津)

まえがき — 日本人の対朝鮮への蔑視や被隷属史観は「壬辰丁酉倭乱」いわゆる秀吉の朝鮮侵略が明治に正当化され、侵略と残虐行為が再生産されていったからである。そうして秀吉は英雄視され賛美されると同時に、朝鮮での侵略、連行、残虐行為などの真実が日本の歴史研究や教育の場で徹底して検証する自浄努力がされなかったからでもある。いまでもTVドラマをはじめ、その傾向は歴史研究や教育の場はもちろん、あらゆる場で根強く残されている。

1. 「壬辰倭乱」と九州

「唐人坂」秀吉の朝鮮侵略の基地となった肥前名護屋には「唐人坂」や「地獄浜」などと呼ばれる地名がある。この文献外の資料からも秀吉の朝鮮人連行や自国民への残虐行為を行っていたことが住民たちによって語りつがれてきた。

「子供の連行と鼻そぎ」女や子供までも連行したり鼻そぎの文献や資料が九州には多い大分の慶念「朝鮮日日記」や佐賀の山本常朝(葉隠)の祖父の年譜及び連行された人びとの墓石が肥前には多く見られる。これらによる歴史がなぜ語られ研究されてこなかったことはなぜか。

「焼き物戦争と唐人町」

とくに九州の大名軍は、この戦争の全期間を朝鮮に常駐させられ、その期間に競って主に陶工を自領に連行したので九州は日本の焼き物王国となり、一方朝鮮の窯業は衰微した。他の技術者も連行して居住地を限定した。九州の各城下町にある唐人町や高麗町がそれである。また、この人びとの故国への望郷の丘も多い、この事実も研究し語られなかった。

2. 「秀吉の連行」と現代

「李参平碑文問題」世界ふ博の有田開催時に李参平顕彰碑が韓国鶏竜山に建立された。

その碑文に「侵略」や「連行」が明記されていないと抗議運動が起きた。しかし

「顕彰と歴史背景とは別問題」とか参平の連行には歴史的根拠がないと拒否した。

「秀吉朝鮮侵略賛美の校歌問題」侵略の基地となった名護屋の小学校の校歌に秀吉の朝鮮侵略戦争を讃える内容の指摘に、その校長や教育長など変更の検討の意見はあったが、他の人々からの抗議や変更反対、自虐史観など様々な意見を受けた。また「校歌と歴史とは別問題」という主張もあり碑文問題と共通したものを感じた。

「倭乱を覚える会」と歴史の共有及び日本人の自浄努力

「壬辰倭乱400年」を機会に基地の名護屋城址で、この侵略の検証を行い真実を多くの人々に知らせる集会を続けて、8回目を迎えた。今年は日韓でこの歴史の真実を共有する集会とした。日本側がなぜ、この歴史の真実を共有できなかったか、そうして日本人の自浄努力のなさを痛感し、さらに唐津の唐人町と朝鮮長屋が隣接していた事実の歴史的意味の深さに気づいているところである。

上記の各項目について詳しい資料集を作成しましたのでお求め下さい** 1部7百円

資料集 目次

(1) 400年前の連行と現代

1. 日朝関係史と私
2. 世界ふ博と李参平問題
3. 秀吉賛美の校歌と
自虐史観説及び元寇
4. 善隣友好と歴史認識の共有
5. 唐津地方の二つの連行
①唐人町と朝鮮長屋
②手書きの独立行進曲
6. 高麗姫墓と神功皇后祭り

(2) 日朝交流史と侵略史—歴史認識の共有—

1. 交流史—海と民族の交流史(唐津地方中心)
2. 侵略の歴史と抵抗の歴史
3. 江戸時代の高麗文化
4. 歴史(中学)の授業資料(日朝関係史)
①安土桃山時代—「秀吉の朝鮮侵略」
 1. 太閤検地と朝鮮侵略
 2. 朝鮮出兵と家康
 3. 日本民衆の犠牲
 4. 朝鮮民衆の犠牲
②近代・明治時代—「明治政府の朝鮮侵略」
 1. 征韓論の歴史
 2. 征韓論
 3. 明治初年の朝鮮関係新聞記事
 4. 大日本帝国の朝鮮併合と民衆

武勲録



「明星」裏表紙カット・明治40年2月発

加藤清正と熊本

1. 清正の肥後支配

1588 年（天正 11）～1611 年（慶長 16 年）

熊本築城と城下建設， 新田開発， 河川工事

2. 朝鮮における清正

「1592 年（文禄元）、加藤清正ら西日本の大名を主力とする 15 万余の大軍を釜山に上陸させた（文禄の役）。日本軍は朝鮮側の対応のおくれもあつて、まもなく漢城（現、ソウル）をおとし、加藤軍は豆満江まで進出した。」（某高校日本史教科書）

- ・威鏡道攻略， 朝鮮二王子の捕縛， 蔚山籠城、 虎退治
- ・小西行長との確執 → 「地震加藤」

3. 清正の神格化

- ・細川氏の顕彰

『清正記』・『続撰清正記』の編纂（1664）

『藤公遺業記』（鹿子木量平、1832） 「神君は文武兼備の名将」

- ・清正公信仰

清正百年忌（1710）， 清正百二十五年遠忌（1735）・頓写会（毎年 6 月 23 日）

清正公二百年遠忌（1810）・『清正神祇靈驗記』（1810、京都）

清正公二百五十年遠忌（1859）・「勅願所肥後熊本発星山本妙寺略図」

4. 近・現代の清正

加藤神社の創建（1871 錦山神社、1909 改称）、大木兼能・金富を合祀

日清・日露戦争 軍神的要素

清正公三百年遠忌（1909，閣議、韓国併合を決定）

加藤神社への改称，『加藤清正傳』の刊行

5. こんいちの清正

清正公さん， さまざまなイベント・モニュメント

今に残る地名（蔚山町，高麗門）

（吉村豊雄 熊本大学）

被差別部落加藤清正強制連行朝鮮人起源説をめぐって

羽江忠彦

(レジュメは当日配布します)

秀吉侵略の傷跡を訪ねて

益田市の高校生たち

(レジュメは当日配布します)

加藤清正と新聞報道など

金 慶 海

(レジュメは当日配布します)

第3分科会A

強制連行・強制労働 全国

司会：川瀬俊治 守屋敬彦

北海道・朱鞠内における強制連行・強制労働の実態と掘り起こし

拓殖大学北海道短期大学助教授

空知民衆史講座副会長

小野寺正巳

北海道の北部に位置する幌加内町朱鞠内は、住民150人の過疎地域であるが、ここには朱鞠内湖があり、10万人の観光客が訪れる場所でもある。

しかし、ここは戦時下には強制連行・強制労働の現場であった。すなわち、1935～41年の名雨線（旧深名線の一部）鉄道工事と1937～43年の雨竜ダム建設工事に数千人の債務拘禁労働者（いわゆるタコ部屋労働者）と3000人を超える朝鮮人強制連行労働者が過酷な労働を強いられたのである。その下で、埋火葬認許証などから判明した犠牲者が、日本人168人、朝鮮人36人に達していることが明らかとなっている。犠牲者の死亡時の年齢は、いずれも平均30歳代前半であり、その死亡原因も衝心性脚気、肺炎などが多く、劣悪な労働条件の下での過酷な労働であったことを物語っている。

1976年に発足した空知民衆史講座は、こうした労働と犠牲の実態を明らかにし、遺族調査や朱鞠内共同墓地周辺の笹ヤブに埋葬されている遺骨の発掘及びその遺族への返還、モニメントの建立、旧光顕寺本堂などの歴史的建造物の保存と展示館の開設、刊行物の発行、さらにはこれらを活用した学習活動やコンサートなどのイベントの実施、といった様々な事業を全国各地の心ある多くの人々の協力に支えられつつ行ってきた。

とりわけ、1992年の韓国遺族への遺骨返還を契機として、韓国民衆との和解と友好を一層深めるための活動に取り組んできた。このなかから、日・韓・在日の若者たちによる遺骨発掘とこれら三者の新しい人間関係の樹立を図る共同ワークショップの構想が生まれ、これが97年夏に実現し、その結果新たな遺骨の発掘とこれまでにはない若者たちの交流の場が朱鞠内から生まれたのである。その後、98年冬のワークショップ（旧光顕寺本堂の屋根雪降ろし）を経て、同年夏には韓国でのワークショップが開催された。ここでは、朱鞠内及びその周辺で働いていた韓国人及びその遺族に対する聞き取り調査などを実施し、それによって強制連行の多様さとその傷痕の深さを韓国の若者たちと共に体験的に学ぶことができた。また、韓国での聞き取り調査を速やかに実施しなければならないこと、日本の植民地支配が韓国民衆に及ぼした影響が多様な形での強制連行を含めた日本への渡航を生み出したことも理解することができた。

なお、99年の第3回ワークショップは、前2回のなかから提起された在日の問題をテーマにして大阪で開催すべくその準備が進められている。

本報告では、20数年に及び空知民衆史講座の強制連行・強制労働に関する取組をワークショップを中心にビデオと資料によって紹介するとともに、われわれのこれまでの経験に基づいて強制連行・強制労働問題にどのように取り組むべきかについて私論を述べることにする。

足尾銅山を始め栃木県下における

朝鮮人強制連行労働の真相追跡調査の現況

「＜下野＞朝鮮問題研究会」

（報告者） 代表 孫 大勇

リン・デヨン

昨年（1997年）の金沢集会以後、足尾銅山を中心に県内各地への調査と資料分析は継続、前進し、現地と地方行政の協力に依り、新たな発見と共に埋もれかけた過去に光があたりつつあります。

△ 報告内容

1. 真相調査団による朝鮮人強制連行労働に関する中間報告集の発刊

- － 1996年 2月 2日 栃木県「知事事務引継書」開示
- － 1996年 7月25日 「朝鮮人強制連行 栃木県真相調査団」結成
- － 1998年10月20日 中間調査報告集『遙かなるアリランの故郷よ！』発刊

2. 新たな発見

- － 西澤金山、日向鉱山、天上沢鉱山、加蘇鉱山、日産神戸発電所建設関連工事
- － 那須の山中にもいた朝鮮人徴兵青年たち
- － 人里はなれた山奥にあった供養碑の朝鮮人名
- － 「名簿」記載以上の犠牲（死亡）者（火埋葬許可証、過去帳）

3. 朝鮮人労働者名簿の分析

4. 企業、社会保険事務所、市町村との交渉

- － 日通 宇都宮支店（未払賃金、預貯金の保管と供託）
- － 今市 社会保険事務所（加入と補償等）
- － 労働地、市町村との交渉

5. 犠牲（死亡）者 出身地 行政（洞、面）への調査依頼と回答

- － 遺骨返還、補償 有無及び遺族の確認

中島飛行機半田製作所等の強制労働体験者の聞き取り調査

寺尾光身

(レジュメは当日配布します)

第3分科会B

強制連行・強制労働 九州・沖縄

司会：寺本是精 二見政輝

「平和の礎」と朝鮮人戦没者
韓国 明知大学 教授

洪 鐘 儀

TEL 001-82-2-418-2270 FAX 001-82-2-413-3144

沖縄本島の南 摩文仁ヶ丘にある平和記念公園の東にある「平和の礎」には沖縄戦で命を失った韓国出身189人を含めた総数23万7138人(1998. 6. 23現在)の名前が刻銘されており、ここでは毎年6月23日に「慰霊の日」の行事を行って戦死者の冥福を祈っています。

わたくしが「平和の礎」と関わりを持つようになったのは、韓国のKBS取材陣とともに沖縄へ学術探訪(1995. 5. 14)した際「平和の礎」工事現場を目にしてからです。当時韓国区域に立ち寄った際、他の区域と違い51人の朝鮮出身戦没者だけが刻銘されているだけで、残りの部分は空白に残っているのを目撃して大きな衝撃を受けました。その場に同行していた共同通信社 那覇支局の後藤充記者に「わたしが知っているかぎりでは植民地時代、2万多名もの朝鮮の人たちが日帝により沖縄に強制連行され、その中の1万5千余名が戦死したと言われていると思うが、51人だけ刻銘されたのはどうしてでしょうか」と尋ねました。これを契機に後藤記者の紹介で、1995年4月13日 沖縄県 大田昌秀知事がわたくしに追加刻銘の調査依頼をしてきた時からです。

わたくしが沖縄県の依頼を受ける事を決心したのは「朝鮮に力がないので日帝の植民地になってしまい、また、そのために植民地時代朝鮮人たちは他意により沖縄戦で命を失ってしまった。彼らを探し出して刻銘する事に歴史として大きな意義がある」と思ったからです。

しかし沖縄戦が終わり、はや50余年が過ぎた今日、韓国は 朝鮮戦争・産業化のために10余回も引っ越ししている事も珍しくなく、同じところ(赤紙をもらった所、もしくは連行された所)に遺族が住んでいる事は希であり、また、あの当時は創氏改名により現在と名前・名字とも違っており、そのことが更に難しさを増しました。

更に胸が痛んだ事は、たとえ遺族を探し出す事ができたとしても「どういう形であるにしろ日本に協力するつもりはない」と、数回にわたり訪問して説得にあたったにもかかわらず結局、刻銘を拒否する場合もあり、韓国が日帝より独立して半世紀以上経つにも関わらず両国はまだ近くて遠い国である事を痛感したことです。

わたくしが遺族調査に意義を感じるのは、一つに「平和の礎」をたずねる人たちに再び戦争があってはならないという生きた教訓を示せるので、平和の教育現場としての意味合いが大きく、もう一つに50余年、生死すら分からなかった肉親が命を失ったところを知らせる事により、遺族たちが現地を訪問して、自分の父(夫)の名前が刻まれた所に手を沿え、50余年間胸に積もってきたものを晴らすのを見る事ができたからです。

だが1995年 沖縄県からわたくしに送られた戦没者名簿は454名分しかなく、1万5千余名と推測される彼らを探すために努力した結果、1995年6月12日 韓国政府記録保存所で 沖縄に強制連行(もしくは徴兵後送られた)された2万余名の記録である「船舶軍(沖縄)留守名簿」(昭和23年12月 第一整理課 船舶班調整)を探し出す事ができ、これを4年近く現場での確認を経て、確かな名簿である事を確認し、1999年3月24日 韓国に出張していた平和推進課の 長浜政治課長補佐と 仲村百代主任にその旨を知らせ、3月24日 名簿の一部を沖縄県の平和推進課に送ることができました。

残念な事は、わたくしが遺族調査を始め1年目(1996~1997)43人、2年目(1997~1998)92名の同意を得ることができ、その一部と1998年6月22日「平和の礎」を訪問して追加刻銘式に参加しましたが、3年目である今年(1998~1999)に42名の同意を得る事ができたが、予算不足により刻銘式を行なえなく、遺族を強い抗議を受けた事でした。だけど沖縄現地のマスコミの力添えにより、来年の式の約束をもらえた事は幸いな事といえます。

1999年6月23日現在 わたくしが沖縄県から受け取った454名の中で111名だけを残しており、残った人たちの調査を続け、すべての調査が終われば韓国政府記録保存所から探し出した中の1万5千余名の戦没者遺族を見つけ出し「平和の礎」に残っている空白を埋めるのが沖縄の歴史を研究する本人の勤めと思っています。なぜなら「貧しいがゆえに沖縄まで連れて行かれた彼らの記録だけでも明らかにするのはわたしの努め」だと思っているからです。

三池炭鉱と強制連行

1999年7月31日 ミニコミ「連絡簿」武松 輝男

1、三池炭鉱の災害の実態（三池炭鉱災害統計による）

明治39(1906)年～平成8(1996)年(三池炭鉱は平成8年会計年度(平成9年3月31日)で閉山)

死亡 3040名 34名/年

重軽傷 354563名 3940名/年

2、災害が多い炭鉱に就労することを嫌う風潮があった。

イ、囚徒を使役していたことにたいする畏怖。 ロ、水盃を交して就労した話。

ハ、三池炭鉱労務者と結婚の話を聞いて腰をぬかさんばかりに驚いた老婆の話。

ニ、大牟田出身と聞いて、一夜の宿を断った、山村の小学校長の話。内財(うちたから)、外財(そとたから)の民俗思想と石炭鉱。

3、朝鮮人を三池炭鉱に就労させた理由（日本鉱業会誌による）

イ、儒教の精神(敬神の精神が日本人とよく似ている)。 ロ、皇国臣民化運動(自立更正運動)。 ハ、集団生活による石炭増産への効果(出勤率 日本人65% 朝鮮人90%)。 ニ、離職率(逃亡率その他)の減少効果(概数 自由応募 90% 官斡旋徴用 52%)

4、中国人を三池炭鉱に就労させた理由

イ、九州管内での朝鮮人を就労させた炭鉱

朝鮮人は、昭和14(1935)年から使役しはじめる。昭和18(1943)年 49鉱業所・84坑。昭和19(1944)年 109坑。ただし、人員は横ばい状態。ロ、石炭増産答申書 石炭生産に必要な人員の不足を中国に求める。中国人は、昭和19(1944)年から就労させはじめる。

5、朝鮮人・中国人・俘虜の配置先と人員(概数 名)

	中国人	朝鮮人	俘虜	三池炭鉱	概況 炭丈(M)
宮浦坑	570	1367	—	第二上層	1～3
萬田坑	1108	1738	—	上層	2～5
四山坑	694	1246	—	本層	2～5
三川坑	—	598	1478	上層	2～5
本所	—	250	—	露頭	
	2372	5199	1478		
三池製錬所	—	471	—	亜鉛製錬	
阿蘇採鉱所	—	340	—	褐鉄鉱採鉱	

6、中国人、朝鮮人 労働災害と死亡

	三池炭鉱 災害件数		中国人被災件数		朝鮮人被災件数	
	件数	死亡(名)	件数	死亡(名)	件数	死亡(名)
昭和16(1941)年	4598	76	—	—	—	—
17(1942)年	2376	45	—	—	2	2
18(1943)年	—	—	—	—	6	6
19(1944)年	3434	164	11	48	10	11
20(1945)年	1493	97	16	18	16	17

7、三池炭鉱萬田坑での病気死亡(中国人・朝鮮人)

呼吸器系(70・1)。胃腸系(8・-)。心臓系(12・1)。内臓系(27・1)。栄養不良(5・-)。精神神経系(4・-)。打撲(1・-)。骨系(4・-)。伝染病(-・1)。原因不明(-・3)。

8、中国人の三井資本への補償の動き(概略)

要求項目 慰謝料請求、遺骨返還、遺族の名誉回復

時期 平成5(1993)年 王 連赫(萬田坑で死亡) 長男 王 起禎 直接交渉
平成8(1996)年 朱 玉草(萬田坑で死亡) 孫 朱 光 直接交渉

5 3年後に初めて犠牲者の声 槇峰鉦山中国人強制連行事件の調査

1999. 6. 10.

槇峰鉦山中国人強制連行事件の真相を知る会

宮崎県 児玉武夫

隠された真実を探しに中国へ

中国山東省から連行された中国人強制連行者が槇峰鉦山に着いたのは1945年2月1日。中国に帰還するまでの10ヵ月間に77名が死亡。宮崎県当局は関係書類を焼却真相を隠した。私たちは死亡者の名簿を手掛かりに山東省禹城市に生存者訪ね真実を聞いた。安保翠、劉少明、王子立の三氏に面接。11月の中頃捕まり、済南～青島の俘虜収容所～船倉と貨車で約2カ月かかっている。全員が衰弱し半病人になっていた。

槇峰鉦山の死亡率は30.8%、全国は17.5%、シベリア抑留者は10%、当時の日本人一般の死亡率は1.6%だった。年齢は最高68歳、最年少14歳、50歳以上の年長者が72名、うち半数以上の38名が死亡。多数の死者が出たことを「出発前並びに船中の処遇が原因」と鉦山側に落ち度はなかったと言っている。

死亡者続出は連行途中だけの問題ではない。安保翠さんは落盤で右肘骨折したが一度も治療されていない。病気になっても特別食もなく、働けなくなると寝かされ死を待つだけ。労働も7時朝食、8時労働開始、昼食30分、午後4時まで就労。30度の熱と湿度80%、地下700㍎での強制労働、月月火水木金金という過酷な労働、安さんたちに覚えていた日本語を聞いたら、「バカヤロー」と大声とともに足を蹴り上げた。

栄養失調、高年齢、強制労働が相次ぐ死亡の原因

年長者の半数が死亡（日本兵の「召集令状」は45歳まで）。原因は大腸カタル・ビタミン欠乏・胃腸炎が49名（63.6%）、肺結核・肺炎・気管支炎・感冒が11名（14.3%）、事故傷害・凍傷4名（6.5%）。高齢、強制労働と狭い住居、人間扱しない強制連行が死亡の原因である。

食事は三人の生存者は「朝夕はお粥、昼の弁当はマントが一つ、野菜は漬物だけ」と、激しい強制労働を維持するのに必要なカロリーはなかった。

住居も一棟四世帯住める建坪37.5の長屋（「槇峰鉦山史」）二棟、75坪の部屋に240人が詰め込めば一人畳一枚はない。安さんたちは「板敷きに足を向け会い、薄べらな短い蒲団で寝た。床下は水が流れていた」と語った。

賃金も「当局の指示により日本人の二倍、一日5円、送還時に退山手当一人千円を支給した」とある。三人の生存者は私たちの質問に一齐に頭を振って「一円の金も貰ったことも見たこともない」と答えた。

「日本はどうしてくれる！」

焼却された「華人労務者顛末報告書」や宮崎県民政部作成した鉦山関係者・警察官の「証言集」が市民の手に残っていた。が、真実は隠されている。

日本で働いたことを利敵行為だと指弾など苦痛は、強制連行を日本政府が認めないことから今も続いている。安保翠、劉少明、王子立さん三人は最後に「日本は私たちをどうしてくれますか？」、と言われた。それは今も私の耳の奥に聞こえてくる。私たちには日本の戦争責任を政府と企業に認めさせ、蹂躪された中国人戦争犠牲者の名誉と損害を回復する責任がある。

以上

「宮崎の鉱業所で無賃労働」

強制連行された 中国人3人生存

市民団体調査

「憲兵に殴られ連行された」「賃金は支給されていない」——太平洋戦争中に中国から強制連行され、宮崎県日之影町と北方町にまたがる三菱鉱業榎峰鉱業所で労働を強いられた人が中国で生存していることが、当時の史実確認を進めている市民団体「榎峰鉱山中国人強制連行の真相を知る会」（阪本隆会長）の聞き取り調査で分かった。同

会が二十五日、記者会見で明らかにした。強制連行の実態は、連行された側の証言が少ないため不明な点も多いが、同会は、今回の調査で全体像の解明に近づいたとしている。

訪中したのは、宮崎市祇園一丁目の自営業児玉武夫さん（七三）と三人。児玉さんは二年前から中国の知人に、死亡者名簿に多い住所での生存者探しを頼んでいた。今夏、禹城市で二十人以上が生きている、との情報が寄せられ、「真相を知る会」をつくって今年十月二十三日に訪中した。

生存者で聞き取りに応じたのは、劉小名さん（七六）、安宝翠さん（七〇）、王子立さん（七四）。「マキミネ」という言葉を覚えており、榎峰駅前で撮ったという当時の写真を持っている人もいた。三人は「城の修理の仕事

があると言われて（日本に連れて行かれた）（榎峰での）住居は一畳ほどの広さだった」と証言。

「働きが遅いと日本人に足げにされた」とも言い、けられる時に言われた「ぼかやろ」という日本語を三人とも知っていたという。

強制連行に詳しい国立佐世保高等の守屋敬彦教授（日本近現代史）は「本来聞き取り調査は政府がやるべきだが、今は市民団体を中心。政府は言葉で謝るだけでなく、本腰を入れて調査すれば、強制連行の実態がかなり明らかになるはずだ」と話している。

同会によると、榎峰鉱業所には一九四五年二月、中国から二百五十人が強制連行された。そのうち七十六人が死亡したとされていたが、今回の調査で、新たに一人が帰国途中に死亡したことが分かったという。

榎峰鉱業所が終戦直後、外務省に出した報告書によると、同鉱業所は「（二百五十人は）募集による自由契約労働者」「給与は現金で十円程度毎月支払った」などとしている。

『朝日新聞』

鹿児島県の強制連行

鹿児島県強制連行を考える会 佐々木智憲

1. 鹿児島県においては島津義弘は、その信奉者等からは人道主義者とよばれている。400年前に朝鮮を侵略した島津の軍隊は、朝鮮で何をしたのか。確かめに韓国の旅を行う(91～92)。そこで、いまなお清算されていない日本の侵略の歴史を突きつけられる。植民地下においては、本願寺教団を初めとして多くの仏教教団も侵略に荷担していく。韓国においては、真宗は侵略の代名詞。そこで、鹿児島県において真宗大谷派の僧侶や門徒、市民で考える会を結成。

2. 本土の防波堤として県内各地には、陸軍・海軍の特攻基地が造られた。その周辺の寺院に労働に携わったと思われる朝鮮人の遺骨が預けられていた。何故預けられているのか。その歴史的背景を探り、鹿児島県の強制連行の実態を明らかにしていく。

95年 朝鮮人であることが判明した遺骨は、韓国春川市太平洋戦争韓国犠牲者納骨堂に安置する。

1995.7.29 朝鮮人・韓国人戦争犠牲者遺骨返還法要 知覧大心寺

1995.8.1 遺骨返還現地法要 太平洋戦争韓国犠牲者納骨堂

4. 鹿児島県の旧陸海軍航空基地 21カ所

1921(大21)笠野原 1936(昭11)鹿屋 1938 鹿児島鴨池 1940 出水大野原

1941(昭16) *知覧 1942～1943 国分第一, 岩川, 指宿

1943～1944 串良, 国分第二, 中種子, 喜界島, *徳之島, *万世

1944～1945 垂水, 《徳之島南, 有明, 出水小原, *青戸》

その他 志布志, 古仁屋にもあった。 (*印 陸軍)

5. 震洋・回天基地(海上特別攻撃隊) 19カ所

戦争末期に各地にて建設されたが、ほとんど出撃はなかった。主な労働力は朝鮮人の人々であった。

6. 基地建設と強制連行

朝鮮人「労務者」 鹿児島県全体で6千～1万人

国分大野原 多数(国分郷土史), 岩川500人位(大隅町史)

青戸(額娃町郷土史), 万世600人(中国人含む), 出水2千人

指宿千人, 国分第二,

その他, 鉾山, 壕堀などに従事。

強制連行された人々と募集で家族で来た人々がいたようだが、その実態の全貌は未解明である。

7. 朝鮮人特攻隊員の問題

知覧町特攻平和会館 11名

国家補償, 靖国神社, 韓国の遺族など大きな多くの問題を残したまま放置されている。 *「わが町の特攻平和会館こそ、あたらしき靖国神社である」
(元知覧町長)

8. まとめ

鹿屋市外国人墓地には、20名の朝鮮人・韓国人の遺骨が納められている。その他、まだ多くの遺骨が残されていると思われる。県下の強制連行の実態は、資料がないことと軍関係だったことで未解明な部分が多い。また、敗戦後、引き続き住んだ在日の方が少ないことも、事実が明らかにされていないことの一つにあげられる。

「粗食で12時間労働 冬も単衣で過ごす」

強制連行の中国人が証言

旧三菱高島砒・端島砒



長崎の市民ら調査

第二次大戦中、長崎県の旧三菱高島砒と端島砒に強制連行された中国人が、賃金の支払いを受け

ず、日常的に暴力を加えられるなど、過酷な労働と生活を強いられていたことが、生存者を対象にした記入式アンケートで明らかになった。戦後補償問題に取り組む長崎の市民グループが調査した。これまで両砒における中国人強制連行と労働の実態については、ほとんど分かっていなかった。

対象者は、国の「華人労働者就業事情調査報告書」（外務省報告書）と会社の内部資料「華人労働者調査」に基づき、高島砒の百九十一人と端島砒の二百四十人、名簿にあった住所にアンケートを郵送、昨年十二月末までに、五十九通の返信があった。このうち二十二人の生存者からは当時の証言を直接得

アンケートに回答

中国人強制連行、一九四二年、政府は中国人労働者の移入を閣議決定。目的は第二次大戦末期の国内労働力不足を補うためで、翌四三年から「試験移入」を開始、四四年には本格化し

た。「外務省報告書」によると、炭鉱や土木作業所など全国百三十五事業所に計三万八千九百三十五人が連行され、六千八百三十人が死亡したとされる。

苦しさを訴えた。

調査をした全国被爆二世団体連絡協議会会長で小学校教諭の平野伸人さん（五三）は「五十年以上歴史に埋もれていた事実が浮かび上がった。今夏、現地の生存者を訪ね、さらに真相の究明をしていきたい」と話している。

今までになく貴重

ることができた。残りは本人が死亡したりの消息不明だったため、肉親が書いた。生存者の証言によると、労働時間は一日平均約十二時間。「豆かすに米とアワを混ぜたものを一食一わん」「入坑すれば一わんの飯、しなければ半わん」「冬も単衣の服」など、過酷な生活の一端が浮き彫りになった。河南省の男性（五三）は「現場の監督にのしり殴られ、頭に傷跡が残っている」と証言している。

また、支払われるべき賃金については、生存者のうちわけてアンケートに答えた肉親の中には、「二人の妹を手放し、物乞いをして暮らした」「着るもの、食べるものも不十分だった」など、一様に連行後の生活の

中国人強制連行の問題に詳しい松沢哲成・東京女子大学文学部教授（日本近代史）の話、これだけまとまった形で生存者から証言を得たのは今までになく、貴重だ。捕虜のほか、工場労働や農作業中に連行されたケースなどもあり、強制連行の多面性がよくわかる。日本を代表する企業による強制連行の一次史料は少ないだけに、その責任を明らかにした意義は大きい。

中国の遺族から届いた感謝の返信を読む
福岡県立宇美商業高校の生徒ら



「父の死 53年後に知った」

中国から感謝の返信

勝田炭鉱
強制連行 高校生の調査実る

福岡県宇美町

第二次大戦末期に福岡県宇美町の勝田炭鉱で、強制連行された中国人労働者八十七人が死亡した問題を調査している県立宇美商業高校の社会科学部が、中国の遺族に手紙を送ったところ、行方不明の父親が同炭鉱で死亡していたことを五十三年ぶりに初めて知った江蘇省の男性から、このほど感謝の返信が届いた。男性は、一九四五年六月に勝田炭鉱で死亡した呉須坤さんの息子の呉文明さん。同部顧問の岩佐英樹教諭は「中国側の関係者がようやく見つかった。できれば日本に招きたい」としている。須坤さんは妻の方玉貴さんと五人の子を江蘇省に残して杭州で働いていたが、四十四年に行方知れず。文明さんの手紙には、感謝と

が死亡したことが、三菱炭業（当時）などが四十六年に政府に提出した報告書で判明している。

報告書に詳細な住所が記

されていたのは四十八人の死亡者だけだったため、同部は昨年十月に遺族に手紙を出し、本人が炭鉱に来ただけに、部員たちの喜びは経緯を調べた。あて先不明ひとしおだった。

『熊本日日新聞』

1999年3月22日

沖縄の強制連行

安仁屋政昭

(レジュメは当日配布します)

福岡県と強制連行—行政文書から—

長澤 秀

(レジュメは当日配布します)

第4分科会

戦後補償問題の課題と展望

司会：山田忠文 村田 久

問 題 提 起

田中 宏

1, 先行例としての台湾人元日本兵の提訴

77年 提訴、85年 東京高裁の「付言」、87～8年 特別立法（各300万円）

2, 1985年という年

指紋拒否と大量切替、ワイツゼッカー演説（→心に刻む会）
中曽根首相の靖国公式参拝（前史としての教科書問題）

3, 国際的な動きのなかで

日系人強制収容についての米・カナダの謝罪と補償（2万ドル）
ベンツ社の補償（88年）
シベリア抑留についてのソ連の謝罪と資料伝達（91年）

4, 90年代に入ってから補償要求裁判

89年12月、中国人の鹿島への公開質問
90年8月、サハリン残留韓国人の補償請求提訴
以降、各種の提訴あいつぐ（約50件）

5, 「慰安婦」問題をめぐって

90年のノテウ大統領来日（強制連行の名簿調査依頼）、91年 提訴、92年 防衛庁資料発見、93年 官房長官談話、94年以降 国連で、95年 アジア女性基金発足

6, 裁判の動向

98年4月の関釜裁判は一部勝訴。一方、付言などで立法を促す判決も
（98・9 援護法の東京高裁判決→99・3 野中官房長官発言→5 大阪高裁和解勧告→ 国側和解拒否→ ?）

7, 何が問われているか

戦後補償の内外格差、歴史認識をめぐる諸問題（自由主義史観の登場）
国内法と国際法（時効・除斥、国家無答責、国際法の個人の補償請求権）
調査立法及び補償立法による解決

私と太平洋戦争・そして解放

—治安維持法犠牲者に国家賠償を—

徐 元洙(西宮市上大市 5-15-12)

私は8才の時、母の手に引かれて父を防ね日本に渡ってきました。現在74才です。小学校4年生から、新聞・牛乳配達をして苦学しながら家計を助け、苦勞と差別のどん底で、文字通り赤貧洗うがごとき生活が続きました。

1942年12月、旧制中学校を繰上げ卒業した時も、「朝鮮人」だということですべての就職から除外され、社会に放り出されました。紆余曲折を経て、当時の朝鮮總督府の下級事務員として勤めることができました。そしてその間、さまざまな差別の実態を目の当たりにして、民族意識も少しずつ目覚めてきたのでした。

しかし1944年7月、「朝鮮獨立運動」をしたということで兵庫県警特高課に逮捕され、8か月後、すなわち解放の6か月前、1944年2月に、懲役2年執行猶予3年で釈放されました。その間、親との面会も、差し入れも一度も許されず、労役もさせず、5等飯で痛めつけられました。その頃は、連日連夜、日本のあらゆる都市に、米軍のB29の爆撃が続きました。神戸拘留所もそれから逃れることはできず、何度も爆撃を受けました。壁が壊れ、窓ガラスが破れるなか、殺人・強盗犯でも、空襲時は裏庭の塀の中へ避難させましたが、私だけは「国賊はその必要なし」と、鉄窓の中へそのまま閉じ込められていました。命あって今ここに生き永らえております。

青春時代の真っ只中の8か月間、私にとって青春とは一体なんだったのか？

その時に受けた身体的・精神的痛みは、35年が過ぎた今でも癒えません。

ですから私は日本政府に訴えるのです。私に対する日本政府の違法行為による肉体的・精神的賠償はどうするのか？と。また、それに伴う私に与えた屈辱に対する名誉回復はどうするのかと。

「治安維持法」は、悪法の中でも極めづきの最たる悪法です。

これらは、朝鮮人たる私の民族性の尊厳に関することであり、ひいては、後世に対する私の責任でもあります。だから私は訴えます。強制連行・従軍慰安婦問題とまったく同列に、日本政府に、過去の清算を促すものです。日本政府は、法的責任を明確に認め、植民地支配と侵略戦争の賠償を履行して、朝・日国交正常化と朝鮮の自主的平和統一を促進すべきだと思います。

このことの正当性はすでに国連人権委員会で報告され、意見が採択されたことでも一目瞭然です。この要求が達成されるまで、私は死ぬことができません。患永い闘いに向かっていくつもりです。

中国人強制連行・西松建設裁判について

広島 支援する会 中 土 勝 雅

1 安野（広島県太田川水系）への強制連行

西松組（現西松建設）は1944. 8. 6、水力発電所建設工事のため、中国人360人を工事現場へ強制連行した。そして南北約8kmにわたる4箇所の収容所に収容した。衣食住・労働の総てを管理下に置き、苛酷な奴隷労働を強いた。それで1945. 11. 24帰国への出発までに、29人の死者（5人の原爆死を含む）と多数の傷病者を出した。

2 中国での現地調査と西松建設との交渉

河北省・河北大学の協力をえて、1992年から現地での調査と聞き取りを実施した。明かになった事実をもとに1993、1995、1997年の3回生存者と遺族を招請することができた。そのたびごと、西松建設（殆どは広島市にある中国支店、1回だけ東京の本社）と交渉を重ねた。

3 1998. 1. 16広島地裁に提訴

○ 公式謝罪 ○ 記念館の建設 ○ 正当な補償 を求めて交渉したが、西松建設のあまりにも不誠実・無責任な対応がつづき、やむなく裁判でたたかうことになり、原告5人（生存者3人、遺族2人）が提訴した。弁護団は4人である。

4 裁判の経過と問題点

この裁判で原告は◎ 国際法違反 ◎ 不法行為 ◎ 債務不履行 を訴えている。これに対し被告は● 55年も前のことで、記録もないし、当時の関係社員もいない ● 調べるができない ● 時効・除斥が成立 ● 共同声明、友好条約で解決済み としている。

年4回くらいで進められている。今年5月2人めの本人尋問。

法廷での通訳に十分な注意をしている（誤り、不十分な点など）

傍聴人の獲得

情宣活動（ビラ配り、申し入れ書、街宣車）

（会報、報告書、出版物、ビデオ製作、イラストマップ）

支援活動（支援集会、連携のための会合、講演会）

調査活動（文献、社史、社内報、現地調査）

中国人関係者にできるだけ裁判の進行情況を連絡する

◎ 人間としての名誉・尊厳を求め、歴史に正義と公道を願って

(1999. 6. 10)

三菱長崎裁判の状況

舟越耿一

(レジュメは当日配布します)

関釜裁判の状況

(レジュメは当日配布します)

八幡製鉄の元徴用工問題をめぐって

八幡製鉄の元徴用工問題を追及する会

(レジュメは当日配布します)

第5分科会

調 査 ・ 保 存

司会: 薬師寺小夜子 塚崎昌之

遺跡の影に残る朝鮮人の足跡に光を！

—文化庁の「近代遺跡調査」と兵庫県での取り組みを中心に—

第5分科会報告 兵庫朝鮮関係研究会 鄭 鴻 永

I 「近代遺跡調査」について (H8・7・16、文化庁「近代遺跡実施要項」から)

- * 対象とする時期を幕末・開国から第二次世界大戦までとし、対象の範囲を「軍事」を含む11の幅広い分野区分に従って調査を行なう。
- * 調査はまず「所在調査」の段階を経てセレクトされた遺跡の「詳細調査」を行い、調査の開始から保存遺跡の選定まで、H8年から8年計画で行なう。
- * 「所在調査」は、すべて各都道府県市長村教育委員会の文化財課が担当し、所定の調査票に記入して文化庁に集計され、「詳細調査」は文化庁が「当該遺跡に詳しい専門家に委嘱」して行なう。

II 調査の実施状況

- * H10・4・24.文化庁より、各都道府県教育委員会主管課長宛てに、「近代遺跡の調査票提出について」の依頼文書が発送。この時に文化庁の「実施要項」が添付されている。
- * 兵庫県ではこれを受けて、兵庫県教育長より県下各市町村教育委員会宛てに「平成10年度の所在場所調査の実施について」の文書が出されたのが7月30日付で提出期限は8月31日。上記「実施要項」が漏れなく添付されている。
- * 各地での状況はまだ把握していないが、広島県のように国庫補助事業としてすでに実施した「近代化遺産総合調査」の調査カードをベースにして文化庁への報告をすませている所もある。(この「総合調査」は広島県の他にこれまで秋田、群馬、福岡、新潟、大分、北海道、埼玉、富山、岐阜、三重、岩手、山梨、鳥取、山口、長崎など15県でも行なわれている)
- * 文化庁への所在調査報告は群馬、愛知、京都がH8年度以降一件もなく、茨城、神奈川、福井、滋賀、和歌山、徳島の6県は「軍事」が含まれる昨年度分の報告がなされていない。(1999・5末現在)

III 兵庫県での取り組み

- * 「紫電改」の部品製造と大阪海軍警備府が疎開する予定で建設され「朝鮮國獨立」の文字が残る甲陽園地下壕が所在調査の対象として報告されていないことが判明。

西宮市に追加報告を要請。(10・19) 要請を受け入れる旨西宮市の回答。(10・30)

- * 兵庫県教育委員会文化財担当課へ現在までの県下全体の調査票の閲覧・複写を申し入れ。(11・19) 一部個人名を伏せた形で公開に応じる旨連絡があり、総計354件の一覧表を入手。(11・25)
- * その後、朝鮮人の足跡が特に顕著に残る8遺跡を追加報告するよう県下の5市2町教育委員会宛てに研究会名で資料を添えて文書を発送。(12・11) 送られて来た最終的な県の調査リストで13件が追加されたことを確認。(1999・6・29)

IV 近代遺跡調査に思うこといくつか。

- * 今回の実施要項で初めて対象になった「軍事」つまり戦争遺跡であるが、その中でも規模が大きく、数においても群を抜いて多いのは、さまざまな軍事目的で掘られた各地に今も残る地下壕である。その建設工事には多数の朝鮮人が動員されたことは、これまでの調査で明らかになっている。従ってこれらの地下壕が所在調査―詳細調査の対象になり、後世に残す歴史遺構として保存されるべきであることは云うまでもない。
- * また、戦争遺跡だけでなく、さらにさかのぼって日本の近代化を進める上で重要な役割を果たした鉄道、隧道、ダム、鉱山、炭坑などにも、あらためてスポットを当てなければならないと思う。多くの場合、人々によく見えているのは常に光輝いている表の部分だけであって、陽の当たらない影の部分には朝鮮人の足跡が深く刻み込まれていることを忘れてはならないと思う。
- * 全国各地から集まった所在調査票の中から、対象を絞り込んで詳細調査を進め、最終的に近代遺跡として選定するのは、文化庁の主導で行なわれることになっているが、いった誰が、いどのような視点・基準から決めるのか。委嘱する「専門家」はどんな人の中から選ばれるのか。それらについての情報公開を求めるとともに、私達の声を何らかの方法で直接文化庁に届けなければならないと思う。
- * また、所在調査を直接担当した各地方自治体が、報告書の提出で「一件落着」と終えてはならず、自らの歴史として認識し遺跡の保存・記録に努めるべきである。例えば地元の地下壕その他の歴史遺構の保存や銘板・案内板の設置。冊子の発行等。また、強制連行とともに、早くから日本に来て地域の形成・発展に深くかかわった朝鮮人の歴史を市町村史へ正しく記録すること等。
- * この問題に敏速に対処するために、グループ・個人を問わず、相互間の連携をさらに深めるとともに情報の交換を進めるべきであると考える。

文献資料から探す地下軍事施設

ー防衛庁防衛研究所図書館資料を中心としてー

ピースおおさか15年戦争研究会・ピースあい(大阪府茨木市) 塚崎昌之

1. はじめに

○地下軍事施設の重要性

- ・朝鮮人労働が関係しているものが多い
- ・「戦争の傷痕」「朝鮮人強制労働の傷痕」として形が残っているものも多い

⇒全国的にはまだ、未発見(?)・未調査のものも多いのでは

ex. 大分県の地下施設、舞鶴の地下施設、飛行場関連施設 等々

⇒皆さんがもっているノウハウの交換、整理をもう一度してもいいのでは

⇒近代遺跡調査→保存に生かす

2. 多様な地下軍事施設～大規模なものから小規模なものまで～

○従来、研究が進んできたもの

航空機関係地下工場(米国戦略爆撃調査団「太平洋戦争報告書」掲載)

皇族・大本営用地下施設、軍中枢部・戦闘指揮所地下施設 等

○多様な軍事地下施設の存在

ex. 飛行場関係地下施設

(戦闘指揮所、航空兵用地下兵舎、航空機掩体地下壕、航空機分解格納地下壕、魚雷調整庫

魚雷格納庫、弾薬庫、燃料庫、工場壕、通信壕(送信・受信)、発電所壕、倉庫 等々)

海軍特攻基地関係地下施設(発射壕、艦装壕、造機作業壕、発電機壕、電気作業壕、充電壕、電池組立壕 等々)

航空機関係以外の地下工場、弾薬庫をはじめとした各種倉庫、病院壕、交通壕、自動車退避壕 等々

3. 防衛庁防衛研究所の軍事地下施設関係資料

○海軍

- ・引渡目録、旧日本海軍補給庁の地下施設、航空基地図 等々

○陸軍

- ・兵器製造施設分散・地下工場建設大陸移駐計画調査表、旧陸軍関係主要地下軍事施設調査表 等々

○防衛庁資料の限界点

4. その他の参考になる資料

○戦略爆撃調査団基礎資料、GHQ・SCAP関係文書、海軍設営隊戦友会関係資料

1947~48年航空写真、社史・回想録 等々

5. どこに資料が眠っているか?

⇒戦争被害調査会法(国立国会図書館法の一部を改正する法律案)のためにも必要

○防衛庁未公開資料、1975年建設省防空壕調査、「昭和20年内鮮報告書類編冊・特別高等課」(千葉県のみ公開)等々

○自衛隊・米軍が使用している施設(主に弾薬庫)関係文書

○AFPACK(アメリカ太平洋陸軍)関係文書

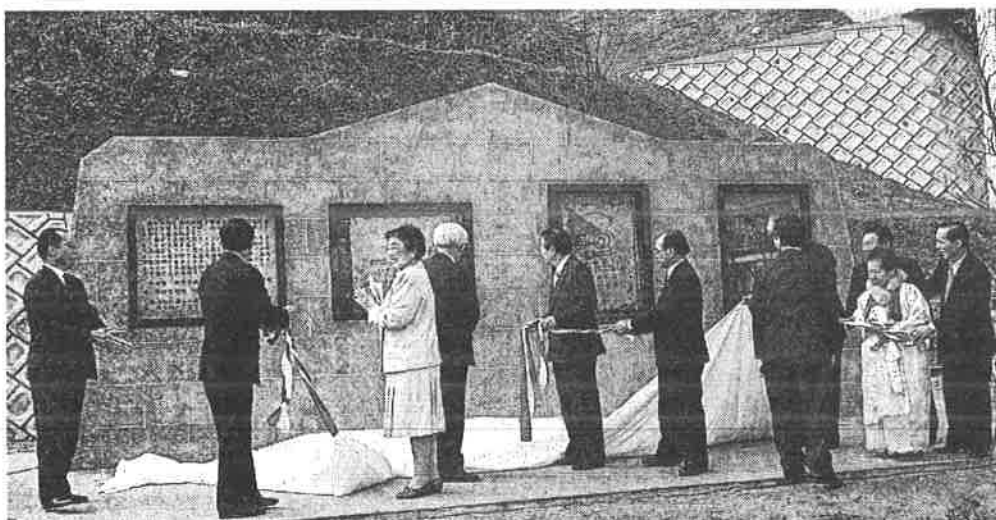
(レジュメは当日配布します)

月 日

平成 9 年 (1997 年) 3 月 2 日 日曜日

『熊本日日新聞』

悲慘な歴史 刻む



強制連行された朝鮮人たちを収容していた三池炭鉱の馬渡社宅跡に建てられた記念碑の除幕式

三池炭鉱への朝鮮人強制連行

収容所跡に 記念碑除幕

大牟田市

三井三池炭鉱に強制連行された朝鮮人たちの収容所だったとされる大牟田市の馬渡（まわたり）社宅跡で一日、記念碑の除幕式が行われた。

戦時中、三池炭鉱には数千人の朝鮮人が連行され、このうち約二百人が同社宅に収容されていたという。平成元年、市民グループが旧社宅の押し入れの内壁から、望郷の思いを込めた漢詩などの壁書を発見、保存運動を展開してきた。壁書は修復され、同市の石炭産業科学館に保管されたが、社宅は炭鉱閉山を前に解体された。

社宅跡地の公園に建てられた記念碑は、高さ約二・九メートル、幅七メートル、厚さ約〇・五メートル。壁書や解体前の炭住のカラー写真を御影石に焼き付けてあり、強制連行の悲慘さを訴えている。この日は、運動を進めてきた「福岡県朝鮮人強制連行真相調査団」や市民グループ、地元関係者ら約百人が出席。日本人側団長の淵上貞雄参議院議員が「石炭産業がなくなる寂しい時代が、歴史を学ぶ拠点ができた。過去を深く反省し、いまわしい歴史を再び繰り返さないことを決意しよう」とあいさつ。朝鮮人側の朴明緒（パク・ミョンソク）団長や栗原孝市長、三池炭鉱所の磯田慎太郎所長らが除幕した。

長崎県・佐賀県の実態調査の経験

柴田利明

(レジュメは当日配布します)

第6分科会

どう伝え、どう語り継ぐか

司会：正木峯夫 高實康稔

地域の聞き書きを語り伝えていくために
―炭鉱とともに歩んだ大牟田近現代史の骨格にふれる―

大牟田南高等学校 長谷川 禎三

1. 子どもから地域が見える

- ・炭鉱閉山によって街が変わる
- ・海を渡って大牟田にきた人々がいる

2. 分断・強制された炭鉱労働が近代日本を支えた

- ・囚人労働・島差別・中国・朝鮮の強制連行....坑内災害
- ・そして戦争がはじまった
 - ―爆発赤痢、大牟田空襲、朝鮮戦争、ベトナム戦争...
- ・差別が再生産される「たて」の差別と「よこ」の差別
 - ―労働現場と地域の中での差別と分断、隔離と住み分け
- ・そしていくつもの「むら」が生まれた

3. 地域のフィールドワークを通して出会ったもの

- ・先人達が歴史を開いた
 - ―小崎文人さんたちに案内されて
- ・足で歩いて現場の肉声を聞く
 - ―戦時下の女工夫たち、テーマパークと養豚、ゴミ発電と屠場...
- ・目と耳で体験するフィールドワーク
 - ―地域（高同教）、職場（図書館での展示）ぐるみの取り組みの中に

4. 明日に語り継ぐ

- ・30年前の私から
- ・大牟田から発信する「地域教材」を
 - ―歴史の中の闇と光を
- ・反戦平和、労働・人権を軸に
 - ―底流にある民衆内部の分裂とつながり

5. まとめ

図書館の果たす役割

大原俊秀

(レジュメは当日配布します)

報告概要

第6分科会 どう伝え、どう語り継ぐか、

知覧特攻基地から出撃した

11名の朝鮮人、韓国人特攻隊員

(修学旅行生への講話から(要旨))

南薩地区平和サークル

赤崎盛彦 (鹿児島県)

知覧特攻平和会館を年間60万人以上の人が訪れるが、1,035名の戦死者の中に、11名の朝鮮人、韓国人が含まれていることに気づく人は少ないようだ。また彼らがなぜ特攻隊員として出撃しなければならなかったのか、なぜ「日本名」だったのかなど、その背景にある日本による朝鮮半島の植民地支配という歴史的事実はみえてこない。そこにあるのは、日本人特攻隊員と同じ、英霊・勇士である。以前、ある関係者は「朝鮮人も日本人として日本国や愛する者を救うために喜んで死んだのだ」といったという。また、かつて同じ特攻隊員として共に過ごしたことのある日本人は「あいつは、われわれ日本人と同じ気持ちだった。日本人として死んだ。」と語っている。ほんとうにそうだったのだろうか。1910年、日本政府は朝鮮半島の独立を奪う日韓併合を強行した。また日本に同化させる皇民化政策を行い、民族の誇りと自由を奪った。それにもかかわらず、この若者たちは、死を覚悟してまで日本の特攻に「志願」したのだろうか。

特攻への入隊は形式上は「志願」だった。しかし、若者たちは「志願」せざるを得ない状況にまで追い込まれていったというべきだろう。とりわけそれは朝鮮の若者たちにとっては、あまりにも過酷なことであった。「朝鮮の独立のために」「朝鮮民族の誇りを示すために」「軍隊は階級が全であり、朝鮮人ということで差別は受けない」など、動機はさまざまのようだが「日本人として日本のために死んだ」というのはあまりにも身勝手、高慢な言葉であろう。

日本が敗戦を迎えたとき、特攻の生存者や遺族はさらに厳しい試練に耐えなくてはならなかった。「志願」だったため、祖国においては日本軍に協力した「裏切り者」というレッテルを貼られたのである。

1994年韓国を訪問したとき、日本に強制連行された経験をもつ韓国人に「朝鮮人、韓国人の特攻隊員についてどう思いますか。」と質問したところ、「あれは志願でしたからね。」という答えが即座に返ってきた。また、ある在日朝鮮人二世は「志願といっても強制に近いものであったことはわかっている。しかし自ら志願したのですから…」と語った。知覧在住の女性が、知覧特攻平和会館に、韓国の大学生を案内したとき朝鮮人、韓国人特攻隊員のことを「「恥だ」と言い捨てたのがショックで、いつまでも心の中にある。」と地元紙に投稿している。彼らの同世代に限らず若者にまで「裏切り者」なのであろうか。わたしたちは、このことを重く受けとめなくてはならない。11名の中、4名の本名がいまだに不明のようだが、これもこういう厳しい状況におかれていることを示しているように思われる。

日本人の遺族には軍人恩給が支給されているが、戦時中は「日本人」として戦争にかり出されたにもかかわらず、戦争が終結すると、「日本人ではない」という理由で支給されていない。過去において日本は何をしたか、その歴史を振り返り、そのうえで間違いは「謝罪」しその必要のあるものは「補償」することが世界の人々、とりわけ隣人であるアジアの人々の信頼を得ることになるであろう。

合同慰霊祭で焼香する参列者
― 荒尾市の正法寺



三池炭鉱閉山しても
供養は永遠に……

強制連行の殉難悼む

荒尾市 慰霊祭に遺族ら60人

戦時中日本に強制連行され、三池炭鉱などで過酷な労働を強いられ、亡くなった中国人・朝鮮人を悼む合同慰霊祭が十三日、荒尾市樺の正法寺であった。殉難者合同慰霊祭実行委（代表・赤星善弘正法寺・金剛寺住職）が同所に二基の供養塔を建立してから毎年開いており、今年で二十六回目。

三池炭鉱での強制労働に従事した劉殿卿さん（ヘミ）神戸市在住とその家族をはじめ、県内外の遺族や関係者約六十人が参列。読経の中、焼香した。

林康治・熊本華僑総会会長、金泰植・在日大韓民国民団県地方本部団長、金末幸・在日朝鮮人総聯合会県本部委員長らが「民族が民族を差別し、軽べつし、抹殺しようとした悲惨な戦争は二度と繰り返してはな

らない。慰霊祭を通じアジアの友、隣人として互いに優しく付き合っていこう」などとあいさつした。

劉さんは収容所周辺の雑草を食べ尽くしたことや、連行から半年後の終戦時には連行者の半数が亡くなったことなど、当時の悲惨な状況を話した。赤星住職は「閉山とは無関係に供養は永遠に続ける。真の友好親善のためさんげと反省を続けたい」と言っている。

『熊本日日新聞』

1997年5月14日

手作りの精霊舟を引く参列者
― 5日、荒尾市宮内出目



強制連行の犠牲者悼む

荒尾市・金剛寺

戦時中に三池炭鉱などに強制連行された中国・朝鮮人殉難者や戦争犠牲者らを弔う特別大法要が五日、荒尾市宮内出目の金剛寺（赤星善弘住職）で営まれ、特大の精霊舟を有明海に流してめい福を祈った。

毎年五月に同市樺の正法寺で殉難者慰霊祭を開いている同祭実行委員会（代表・赤星住職）が「戦争の悲劇を二度と繰り返すまい」と毎年この時期に開いている。

全長約五メートルの精霊舟は檀家らの手作り。麦わらと

ひもだけで舟を作り、この日花やちようちんなど飾り付けをして完成させた。

法要には遺族や日本に住む中国、韓国、北朝鮮の人々約百人が参列。読経の後、参列者たちはちようちん行列で荒尾市役所前を通り、荒尾競馬場南側の海岸へ。飾り付けたちようちんやろうそくに火を付けて精霊舟を有明海に流した。

『熊本日日新聞』

1998年9月6日

石炭産業の足跡を辿る

フィールドワーク コース

選択用

1、出発地

Ⅱ

2、三池炭鉱宮浦坑跡（公園）

明治 20 年(1887)	第一竪坑（風抜坑）
大正 8 年(1919)	第二竪坑
11 年(1922)	石炭から「黒色火薬」を製造 海軍 三井火薬工場を設立
昭和 10 年(1935)	石炭から「生物兵器アサジン」製造
12 年(1923)	第三斜坑 陸軍、海軍へ「アサジン」納入
16 年(1941)	三池合成 石炭から「人造石油」製造に着手
17 年(1942)	強制連行朝鮮人 1367人
19 年(1944)	強制連行中国人 570人 三井染料 石炭から毒ガス「赤1号(イペリット)」 石炭から毒ガス「黄2号(シアナリッド)」 原料製造、大久野島毒ガス工場へ 大久野島の毒ガス工場で製品化して、戦地へ送られる。
	阿蘇鉱山（三池炭鉱管理） 強制連行朝鮮人 340人を、採鉱坑夫として使役。 石炭から「航空燃料」製造（三池合成）に着手するが、阿蘇鉱山の埋蔵褐鉄鉱石が「脱硫剤」に最適と着目。朝鮮人、囚徒、動員学徒を使役し、阿蘇内の牧の「褐鉄鉱」を採鉱。三池合成へ「脱硫剤」として納入。 戦後「阿蘇鉱山」は譲渡される。現在は、日本リモナイト有限会社が「畜産用健康飼料」として採鉱し活用している。
平成 2 年(1990)	閉坑 炭鉱節で名高い「煙突」現存

Ⅱ

3、三池集治監

明治 16 年(1883)	「三池集治監」を開設
36 年(1903)	「三池監獄」に改名
大正 11 年(1922)	「三池刑務所」に再改名
昭和 5 年(1930)	廃監
9 年(1934)	私立三井工業学校 移転新築
敗戦後	県立三池工業高校 現在に至る 刑務所時代の赤煉瓦外塀が現存

Ⅱ
4、宮原坑

明治28年(1895) 第一豎坑(囚徒坑夫・修羅坑)
櫓(木製)
31年(1898) 第二豎坑(良民坑夫・坑内馬)
櫓(鉄製)
昭和5年(1930) 閉坑
第二豎坑櫓と捲室が現存
平成10年(1998) 国指定 重要文化財になる

Ⅱ
5、三池炭鉱馬渡社宅朝鮮人収容所跡

昭和12年(1937)頃 新築
18年(1943)頃 収容所に改築
平成9年(1997) 51棟に残っていた「墨書」碑
公園化し朝鮮総連が建立。
平成7年(1995)に、在日コリア大
牟田(在日居留民団)が、甘木山
公園内に慰霊碑を建立。その中に、
馬渡社宅朝鮮人収容所の墨書が碑
として再現されている。
墨書現物は石炭記念館に陳列現存

Ⅱ
6、三池炭鉱通松中国人収容所跡

大牟田市西米生196
昭和19年5月26日 第一次収容 231名
19年10月30日 第二次収容 339名
主に、八路軍関係者で編成されていたと言われている。
この収容者のうち3名が、地崎北海道第一(伊
屯武華(伊々)水銀坑)に転出させられている。

死亡状況

1、宮浦坑内	労働災害死	2名
	私病死	1名
2、収容所内死	労働災害死	2名
	私病死	28名
3、山ノ上医局内死	労働災害死	4名

収容所跡

現在は、公園になっている勝立社宅事務所跡の、すぐ
北上に建てられていたが造成されて、市営マンション
になっている。

Ⅱ
7、囚人碑「解脱塔」

明治21年(1888) 三池集治監吏員 建立
新装解脱塔

当時宮原坑で働いていた古老の話によれば、
半死の囚人を投げ込んだという言い伝えがある。
この深井戸は、大牟田囚人墓地保存会が、平成7
年(1995)に、解脱塔公園として造成するさいに、
古井戸をコンクリートで覆ってしまわれた。

Ⅱ
8、萬田坑

明治30年(1897)	第一豎坑	
31年(1898)	第二豎坑	現存
大正7年(1918)	三池争議(賃上げ)	
	「米騒動」(賃上げ争議と連動)	
12年(1923)	三池争議(賃上げ)・労務政策発祥	
昭和16年(1941)	強制連行朝鮮人	1367人
死亡状況(朝鮮人)		
	労働災害死	24名
	私病死	6名
	空襲死	4名
障子岳(厩田42)	強制連行中国人	1108名
(現在の荒尾第五中学校 校庭側)		
昭和19年	5月16日	第一次収容 412名
20年	2月10日	第二次収容 279名
20年	3月5日	第三次収容 265名
20年	3月13日	第四次収容 152名
死亡状況(中国人)		
坑内	労働災害死(ガス)	37名
	(落盤)	10名
萬田医局分院	労働災害死	1名
	私病死	1名
原万田152	(元妙見グラウンド中の二階建家)	
	労働災害死	3名
	私病死	122名
	四山関係者	81名
荒尾4642	(現在の朝日ヶ丘市住付近)	
	私病死	3名
熊本若葉町	私病死	2名
山ノ上医局	労働災害死	2名
	私病死	5名
その他	獄死	4名
昭和26年(1951)	閉坑 三川坑に合併	
	櫓、捲室、建家、守衛、山の神などが現存	
平成10年(1998)	国指定 重要文化財になる	

Ⅱ
9、四山社宅中国人収容所跡

荒尾市大島 6 9 4			
昭和 2 0 年	2 月 1 0 日	第一次収容	2 7 2 名
2 0 年	3 月 5 日	第二次収容	2 7 3 名
2 0 年	3 月 1 3 日	第三次収容	1 4 9 名
死亡状況			
四山坑内	労働災害死	1 名	
収容所内	私病死	7 5 名	
山ノ上医局内	労働災害死	1 名	
現在は、貯炭場になっていて、そのかつての所在すら分らない。			

Ⅱ

10、四山朝鮮人収容所跡

- 1、杜宅の北側の二頭山寄りの二階建て
- 2、杜宅の南側のグラウンドの中の二階建て

昭和18年の「特高月報」によるほかに収容人員の推計はできないが、それによると、1、2、合わせて1246名

現在は、貯炭場になっていて、元収容所の所在場所すら確認できない。

Ⅱ

11、三池港

明治42年(1909) 三池港 開港

与論島出身労務者 就労開始

長崎県口ノ津から移住、沖仲士(石炭の船積み)となって石炭積込をする。

賃金は内地人の約7割り。

作業は下請け請負制で昼夜兼行。

昭和28年(1953) 三池争議(113日の闘い)で直轄を闘いとる

Ⅱ

12、三川坑

昭和12年(1937) 第一斜坑・第二斜坑 開削

17年(1942) 強制連行朝鮮人 598人

白人俘虜 1409人

就労場所、三川坑内と三池製錬所新港町杜宅の南側にあった福岡俘虜収容所第17分所のこと。

敗戦後、第一機械工場に転身。

昭和38年11月の三川坑炭塵爆発のあとCO中毒患者の機能回復訓練所となるが、平成9年、三池炭鉱の閉山と共に、解体される。

昭和26年(1951) 三川坑 萬田坑吸収合併

35年(1960) 三池争議(指名解雇反対)

38年(1963) 炭塵爆発 死者458名

43年(1968) 宮浦坑吸収合併

52年(1977) 有明坑吸収合併

62年(1987) 四山坑吸収合併

平成 1年(1989) 閉坑

三池(有明)坑に吸収される
建家、ホッパーなどが現存

Ⅱ

13、第二大和寮朝鮮人収容所

諏訪川南側の今井俊造埋立地内に建てられた第二大和寮のことで、二階建て三棟造りの収容所。

昭和18年から利用されている。

現在は、三井鉱山(株)の子会社、有明機械のメンテナンス部になって、一棟だけが現存していたが、三池炭鉱閉山後、解体されている。

Ⅱ

14, 三井三池炭鉱三川坑南従業員社宅

社宅内の出入りを監視し、従業員の出勤状態の点検し、併せて、所持品の点検、逃亡防止の監視をつかさどった社宅事務所が、まだ現存している。
三池炭鉱閉山のため解体される予定。

Ⅱ

15, 出発地

16, 強制連行中国人・朝鮮人、死亡者慰霊関係

(中国人 2ヶ所 朝鮮人 1ヶ所 共に熊本県荒尾市内に所在)

* 強制連行中国人・南北朝鮮人供養塔

荒尾市宮内出目西 金剛寺(赤星善弘 住職)門徒一同の県内托鉢によって建立された碑で、荒尾市樺 小岱山 正法寺内に建立されている。

毎年5月に、合同慰霊祭が執り行なわれている。

供養塔

「中国人殉難者供養塔」昭和47年(1972)4月12日 建立

「不二之塔(南北朝鮮人供養塔)」昭和47年(1972)10月29日 建立

* 中国人殉難者慰霊塔

荒尾市小岱西に、代表 深草英世ほかの有志によって建立されている。

慰霊塔

「中国人殉難者慰霊塔」昭和59年(1984)3月25日 建立

メモ

ミニコミ「泥水」 炭鉱問題研究会
武松 輝男 作成



- 熊本市の墓の横にたてた「説明板」
抗議を受け、その後撤去された。

「金官」(本名は良甫鑑)の自刃は14.5日後と
いう説もある(『続撰清正記』)のに、わざわざ
7回忌説を強調している。

清正公崇拝にみる熊本の心

清正公、親しみをこめてセイショコさん、
奉って清正公様とも呼ぶ。加藤清正
のことである。戦後、人物の評価が従来
と二変したが、熊本人の多くは今も尊称
を崩していない。

命日に当たる二十三日から二十四日
にかけて、熊本市本妙寺で頓写会が行われ
た。法華経八巻を二夜のうちで写経して、
清正のめい福を祈ったという故事が、こ
この起こりだ。毎年、熊本県内外から大

勢の人が参拝に詰めかけ、終日、お題目
と香煙でにぎわう。

清正は熊本城内の加藤神社にもまつら
れており、二十三日にはまつりの行事と
して神幸行列が催された。

清正の肥後入国は天正十六年(一五八
八)二十七歳だった。昨年は四百年に当
たり、盛んな催しが行われた。慶長十六
年(一六一一)五十五歳で死去。

清正時代は二十年あまり。そのうち朝

鮮出兵などで六年余の空白があるが、今
も脈々として清正公崇拝が続いているの
は、それほど人間的魅力があるというこ
とだろう。細川藩も清正公崇拝を統治の
上に生かした。

熊本はシンボルは熊本城である。うっ
そうたるクスノキの大樹に囲まれ、黒と
白の織りなす豪壮な城や櫓(やぐら)、
曲線美の石垣などの風趣は、熊本人の誇
りである。いうまでもなく清正が、六年
間にわたって築き上げた芸術品である。

清正といえは土木工事の大家だった。
城南、城北の河川の改修、干拓による新

田造成など数え切れない。また隈本を熊
本と改めることも、城を中心に侍町、
商人町、寺町を配置して城下町をつくり、
今日の繁栄の基礎を築いた。
戦国時代は民衆のエネルギーがピーク
に達した時代である。清正は領民の力を
活用し、自然との調和を図りつつ、自然
の大改造を図ったのである。その結果生
まれた景観が、どれほど肥後人の驚きと
感謝を生んだか。その余慶は現代に及ん
でいるのである。

清正は武将であり、その勇武はトラ退
治の伝説にも象徴される。朝鮮出兵の際
も軍律を厳しくし、兵士が住民に暴を振
るのを固く禁じ、また仁愛をもって接
した。朝鮮から連れてきた金官や、日通
上人の逸話がこれを物語っている。

熊本文化は清正とともにある。藤崎
宮のボシタ祭り、高田焼、朝鮮蛤、赤酒
なども清正時代からのものだ。

主君を思ふ至誠、恩義を重んずる心、
自ら難に赴く勇猛、烈々たる壮心、弱者
を思いやるヒューマニズム、敬虔(けん)
な信仰など、清正の心は熊本人が理想と
する一つの人間像であるまいか。打ち立
てられるべき熊本の心の原型を、"わが
清正公"に求めたい。

「在日」の悲劇 400年前にも



本妙寺に現存する日通上人の手紙（熊本県立美術館所蔵のフィルムから）

取材した大阪・青丘文化センターの辛基秀館長は「四百年前の手紙とはいえ、近代の『在日』の体験にも似た悲痛な内容が胸を打つ。日韓両国のわたがまりの根源を理解するためにも、広く一般公開してほしい」と話す。辛氏の記事は六月二日付同紙文化面に掲載され、大きな反響を呼んだ。日通上人は現在の韓国・慶尚南道河東邑で、儒者の子として生まれた。十三歳で進行され、清正の命で出家。本妙寺住職や島原・護国寺の初代住職などを経て熊本で没した。毎年七月二十三日、本妙寺で催される清正供養の法要・顕彰会の

望郷の思い「往復書簡」熊本の寺に現存

豊臣秀吉の朝鮮出兵（一五九二―一五九八）開始から四百周年の今年。加藤清正軍の捕虜として日本に連行された僧侶（りよ）の「望郷」の書簡が「近代の『在日』の悲劇と共通する」と韓国や在日韓国・朝鮮人の研究者、報道関係者の間で新たな脚光を浴びている。

朝鮮出兵捕虜の僧

と昨年秋以降、韓国の新聞社やテレビ局、大阪の在日韓国入研究員らから数件の取材があり、一部は韓国国内で報道されたことから話題になっていくという。往復書簡は同上人（俗名・余好仁）が、実家に残った父・余天甲とやりとりした手紙（下書きなど計三紙）を連行から二十七年後に届いた父親からの手紙には、日本への通信使などを介してわが子の生存を知った経緯が記され「私は五十八歳、お前の母も六十歳。帰国して生きて老父母にまめえる

ところこそ親孝行ではないか」などと、帰国を願う思いが漢文でつづられていく。これに対する同上人の返書は「（両親とも無事の手紙を）読む前に涙がこぼれた。今は主君に衣食を頼る身だが、二、三年のうちに帰国を願ひ出たい」などと記され、悲劇の一端を彷彿（ほうふ）とさせる内容。その後も同上人と父の間で、音信があつたらしい。

『毎日新聞』1992年7月23日（木）

（本妙寺の顕彰会は、日通上人の望郷の念をたぐさうとてはいた、との説もある。）

『熊本日日新聞』1992年1月21日（火）

新生面

「韓国人として侮辱を感じました」。ソウルの宋在徳さんという六十歳の方が、苦言の手紙をいただいた。「とても良い所だった」熊本市を旅行中、ひとつだけ嫌なことがあったとつづいた▼宋さんの気持ちを逆なでしたのは観光案内板だ。本妙寺境内に立っている。朝鮮の役で加藤清正に従った、ある金官（會計）の殉死について「熊本市名」で大要こう説明されている▼金官は朝鮮の人で、清正公の朝鮮出兵に際し通訳の任に当たって大いに貢献した。公の恩徳をしたい凱旋の際に熊本へ随従して仕えた。公の死のち、いさぎよく自刃した。異国の人で一死君恩に殉じたことは史上まれである▼宋さんには、こんな美化・称賛がどうしても納得できない。「たとえ金官の最期が立派なものであったとしても、また日本の武士道から見ても、祖国への反逆行は絶対に許されないことでしょう」と力説する▼互いに立場、立場がある。相対する国の間において歴史上の物事の評価が、ある程度異なるのは仕方ない。しかし、往々にして、それは相手を切り付ける刃になる。宋さんは「あつさり案内板を取り除いたら」と提案している▼首相が韓国を訪問、従軍慰安婦問題で公式に謝罪した。戦後四十七年にして、やっとである。このほかにも、われわれ自身の中には歴史的事実に目をふたつたり、美化したりしている、いろんな案内板がなお残っているようにうた▼手紙の「親善のための苦言」は宋さん一人の思いではなかつた。

（本妙寺にある「金官墓」の「説明板」を見た韓国人旅行者の投書）

九州産交観光のガイドテキスト

「凱旋」の言葉不適切

北九州の崔さんら申し入れ

熊本市桜町の九州産交観光株式会社が、バスガイドの教育に使っているテキストの中で、加藤清正が朝鮮との戦いから凱旋（がいせん）した、と説明している

た。角野信男・常務取締役は「テキストを作るにあたって配慮が足りず、ちかつだった。訂正したい」と答えた。

下旬、阿蘇駅から熊本駅へ向かう同社のバスに乗っていて、バスガイドの説明に疑問を持ち、会社に関わり

合わせた。同社では、すでに加藤清正の部分を削った改訂文案を作っており、今後、社内教育なども行いたいとしている。

崔さんは「歴史的背景や根本的論議がされないまま、ただやめればいいというものではない。侵略の事実、正しい歴史を熊本の人々に知ってもらいたい」と話している。

藤崎八幡宮をめぐるのは昨年九月の例大祭で、祭りで使われる掛け声に対し、加藤清正の朝鮮出兵に端を発する「滅ぼした」に由来する民族差別用語だとする在日韓国、朝鮮団体などからの申し入れを受け、恒例の「ボシタ」の掛け声が使用禁止になったいきさつがある。

熊本。

1991年6月6日

観光案内を点検へ

県観光連が理事会

加藤清正の「凱旋」問題

熊本市の藤崎八幡宮例大祭の観光案内などについて不用意な表現や間違った歴史認識が在日韓国系人などから指摘されている問題で、五日開かれた県観光連盟理

事会の席上、理事から「うかつに書いてある資料もあり、この際資料の見直しが必要」との提案があり、連盟事務局側は是正に最善の努力を尽くすと答えた。

県が韓国向けに作った観光ガイドブックに同宮の例大祭を「ボシタ祭り」と表記して問題になったのをはじめ、最近では県内の観光バスでガイドが同祭りについて、「加藤清正が朝鮮との戦いのとき、凱（がい）旋（せん）をかたどった武者行列」と説明。在日韓国系団体などから三日、「歴史がゆがめられて教えられているから、こんな表現が出てくる」と厳しく指摘され、バス会社側は案内文の訂正と社内教育の実施などを約束した経緯がある。

事務局側は「韓国からの県への観光客は十万人を超

えており、配慮が必要だ。韓国に関するパンフレットや説明書の是正など、連盟事務局としても最善を尽くしたい」と答えたが、業界各社・団体などへの具体的な指導については明らかにしなかった。

新生面

最近、韓国に関する話題が目立った。芦北町の団体「芦北小さな地球家族」が日韓交流、ホームステイの体験を綴った文集を出した。日韓親善を深めるシンポジウムも熊本市であった▼秀吉の朝鮮出兵の際に、日本へ連行された朝鮮人陶工と、逆に朝鮮に住み着いた日本人武將のそれぞれの末裔が四世紀ぶりに対面—とのニュースも。現在の両国間の問題について「日本人の末裔が韓国人としての要望を、朝鮮人の末裔の日本人に伝えたい」そんな▼韓国の知人が「ぜひ読んで」と韓国紙のコラムをわざわざ翻訳して送ってくれた。冒頭に「妻は夫を想い、夫は妻を想い、痛哭する／全家族が刃に倒れ泣く者のいない豊

は幾程か」と。韓国では壬辰倭乱と呼ばれる文禄の役を題材にした詩の一篇だ▼朝鮮出兵は肥後・熊本も縁が深い。本紙夕刊に連載中の小説「海の司令官」の主役・小西行長も登場する。行長は二度、先鋒として海を渡って侵襲している。もともと、敬虔なクリスチャン大名・行長は、もともと秀吉の朝鮮征伐には反対だったらしいが▼コラムは「倭乱が朝鮮に残したのは、徹底的な破壊と飢餓による抗倭反日の感情だった」と続き、ことし四百周年に当たり「一抹の感慨がなくもない」と結ばれている。世紀を四度新たにした今もお民族のこころの傷は消えてはいない、ということなのだろう▼くだんの知人は「いつ傷は癒えるのだろうか」と書いてきた。いまだ「処方箋」の返信を出せないいまだ。

『熊本日日新聞』1992年5月12日(火)

新生面

国際間の意思疎通を自指す「国際コミュニケーション」は草の根的な交流や地道な研究にも助成している▼援助対象がユニークだ。「太古の人々のコミュニケーションの方法」南米における古代人の伝播についての研究」とか「教育ビデオ・ねむり病とたたかう日本人獣医の製作」といったものもあり、興味深い▼きょう熊本市で開かれる米日財団国際シンポジウムもまた意思疎通の企画だ。そのテーマである「競争と協調」の成果を上げるには、国同士がお互いに考え方・気持ちなどを理解しあうことが第一条件であるの言うまでもない▼先日この欄に書いた「日韓間の癒えない、こころの傷」について、読者から指摘

をいただいた。「朝鮮征伐との言葉を使っているのは適切でない」と。四百年前の秀吉の侵略的野望をも表すために「秀吉の朝鮮征伐」と記した。もちろん文章全体としても肯定的には使っていないのだが▼現在の一般的な呼称は、同文中にも二度書いているように「朝鮮出兵」だ。ちなみに、以前は掲載されていた広辞苑にも今では「朝鮮征伐」の項目はない。ただ「朝鮮出兵」の説明には「日本では朝鮮征伐、朝鮮では壬辰・丁酉の倭乱と呼んだ」とある▼要は「征伐」という言葉を消し去るのではなく、「征伐」と称し、そうした認識を持っていた時代があったことを、歴史的背景を含め、はっきり知ることがだろう。そのために幅広い目を持ち、さらに国際間のコミュニケーションを進めたい。

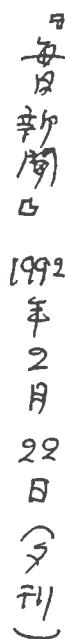
『熊本日日新聞』1992年5月19日(火)

「征伐」が「出兵」か「侵略」か。無意識のうちに
出る用語に私たちの歴史認識が反映されている。
歴史用語として「征伐」を使う場合でも、せめて
「」ぐらいはつけてほしいと思うのだが……。
ちなみに、「征伐」の意味は、＜服従しない者を攻め
うつこと＞＜罪ある者を攻め討つこと＞など。

浄法寺朝美『日本防空史』より

※ 表中で一部合計数が合わないが原資料のママとした

さらに549カ所





「米国戦略爆撃調査団報告書」第15巻航空機工業（現代史資料39『太平洋戦争5』みすず書房所収）

付表第2の13 地下工場の概要

工場	親工場	県	面積		工作機械		従業員		トンネル の種類	生産品	操業 の有 無	記 事
			計画	実際	計画	実際	計画	実際				
三菱航空機 機体工場			(不明)			(不明)	(不明)					
木 葉	第 9	熊本	106,000	19,100		22	1,066	600	新 設	航空機部品	無	
米 田 村	第 9	"	106,000	36,000		無	1,170	無	"	"	"	キ67の部品
島 崎	第 9	"	35,400	無		無	180	無	"	"	"	"
崎 坂	第 9	"	17,000	2,800		無	400	無	"	"	"	"
下 南 部	第 9	"	14,200	1,900		無	250	無	"	"	"	"
水 島	第 9	"	17,000	10,500		無	360	無	"	"	"	"
坂 下	第 9	"	53,000	無		無	940	無	"	"	"	"
万 日 山	第 9	"	70,800	6,400		無	264	無	"	"	"	"
大 津	第 9	"	35,400	無		無	430	無	新 設	"	"	"
上 熊 本	第 9	"	17,700	11,900		無	500	無	"	"	"	"

[illegible]

留国熊第1011工場

期別	施設別		地下施設			覆土施設			地上施設			合計	備考
			面積(坪)			面積(坪)			面積(坪)				
	地区別	作業内用	工事期間										
第一号 工事			第二号 工事	計	第一号 工事	第二号 工事	計	第一号 工事	第二号 工事	計			
第一期	米田村	工作機械	3,000		3,000				550		550	3,550	第一期工事 ハ 8月末 完成トス
	島崎	特殊鍍金機械		1,000	1,000				300		300	1,300	
	植木向坂	金 属		500	500				300		300	800	
	木 葉	胴 体 中 部	1,000	2,000	3,000				2,000	(完成済)	2,000	5,000	
	櫻 府	胴 体 后 部		400	400				180		180	580	
	水 島	鍍 金 及 機 械		500	500					100	100	600	
	大道村	胴体中部(一部)							600		600	600	
	供合小峯	組 立 ・ 整 備				1,500	2,000	3,500		1,000	1,000	4,500	
	上 熊 本	工 作 機 械		500	500							500	
	坂 下	準 備		1,500	1,500				1,070	930	2,000	3,500	
	地区未定	発 動 機 械 装		1,000	1,000					200	200	1,200	
	萬 山	危 険 物 倉 庫		2,000	2,000					200	200	2,200	
第二期	地区未定	成品並材料倉庫		4,000	4,000							4,000	
合 計			4,000	13,400	17,400	1,500	2,000	3,500	5,000	2,430	7,430	28,330	

—48—

戦後責任を問う関釜裁判を支援する会（代表 松岡澄子 入江清弘）

関釜裁判とは1992年12月25日 韓国釜山市などの元日本軍「慰安婦」と元女子勤労挺身隊の10人が、山口地裁下関支部に、日本国の公式謝罪と賠償を求めて、国を相手に提起した裁判である。1998年4月27日の一審判決では「慰安婦」原告は一部勝訴したが、挺身隊原告は全面棄却となった。現在、広島高裁で争っている。

連絡先 810-0043 福岡市中央区城内7-14 花房方

tel 092-713-1879 fax 092-713-1880 e-mail hanafusa@df6.so-net.ne.jp

韓国
ナヌムの家

日本軍〈慰安婦〉歴史館を支援しよう

～ 起ち上がったハルモニたちと反戦平和の連帯をめざそう～

真宗遺族会「ナヌムの家とハルモニたち」を支援する連絡センター

事務局 〒840-0844 佐賀市伊勢町6-22 真覚寺

関釜裁判、10万人署名を成功させよう

広島高等裁判所での「関釜裁判」が公正に行われ、ハルモニたちに日本政府が公式な謝罪と賠償を行うことを求めます。

真宗遺族会「ナヌムの家とハルモニたち」を支援する連絡センター

事務局 〒840-0844 佐賀市伊勢町6-22 真覚寺

梅軒尹奉吉義士暗葬之跡保存会

会 長 翫 正 敏
副会長 朴 仁 祚

韓国独立運動の英雄である尹奉吉義士が、上海爆弾事件の犯人として、石川県金沢市の郊外で処刑された。その遺体は墓地内の通路に埋め、目印もなく歴史上より抹殺されていた。戦後、在日朝鮮人によって遺体は探し出され、国民葬にて韓国に安葬された。義士の暗葬之跡地保存に心身を46年間注いだ朴仁祚の主導で、在日韓国朝鮮人と日本人の募金にて、92年に保存工事竣工。保存会で維持管理されている。

全国規模の保存会にしたい、皆様のご入会を歓迎致します。

梅軒研究会

会 長 朴 仁 祚

在日が中心となり、尹奉吉義士の偉業の宣揚と民族の文化等を紹介。

機関誌「キョレイ通信」の発刊。

セットンくまもと 〒860-8555 熊本市黒髪2-40-1 熊大文学部小松研究室気付

「セットン」とは 韓国・朝鮮人のこどもたちのチョグリに縫いどられた赤や青や
緑や紫などの縞模様のこと

まるで虹色のように 様々な色が自己主張をしつつも調和がとれている
混じりあって一つの同じ色になってしまうのではなく

異なったままでかもしだすハーモニー

くまもとは そんな「セットン」のような街であってほしい

民族や文化の違いを尊重しながら共存できる街であってほしい

それが わたしたちの願い

そのためにできることはないだろうか

さあ すこしだけ勇気をだして 一歩踏み出してみよう

あたらしい自分と出会うために なつかしい友人と出会うために

「セットンくまもと」は、在日韓国・朝鮮人をはじめとする定住外国人の人権と差別の問題について考え、その改善をめざします。

賛同団体名簿(7月20日現在)

群馬	トンネルの会	太田市石原町 221-17 石塚方
東京	在日朝鮮人運動史研究会	府中市晴見町 1-28-13-707 小林方
石川	梅軒尹奉吉義士暗葬之跡保存会 梅軒研究会	金沢市光が丘3-157 金沢市光が丘3-157
長野	松本里山辺朝鮮人・中国人強制労働調査団	松本市蟻ヶ崎6-8-1 豆工房内
岐阜	岐阜県地下壕研究会	中津川市駒場1620-93 下寫方
大阪	大阪府朝鮮人強制連行真相調査団 高槻タチソ戦跡保存の会 ピースあい	大阪市北区西天満6-6-11 空野法律事務所内 高槻市塚脇1-15-7 大田方 吹田市垂水町1-30-16 塚崎方
兵庫	兵庫朝鮮関係研究会 西宮甲陽園の地下壕を記録し保存する会	尼崎市次屋1-16-5 徐方 西宮市津内呉羽町9-30 西宮市教組気付
広島	広島の強制連行を調査する会	広島市安佐北区安佐町飯室1445-1

福岡	八幡製鉄の元徴用工問題を追及する会	北九州市小倉北区大門1-1-1-304
	関釜裁判を支援する会	福岡市中央区城内7-14 花房方
	筑豊の歴史から学ぶ会	飯塚市上三緒 179-42
佐賀	真宗遺族会「ナヌムの家とハルモニたち」を支援する連絡センター	佐賀市伊勢町 6-22 真覚寺
熊本	在日大韓民国民団熊本県地方本部	熊本市本山2丁目2-4
	熊本県同和教育研究協議会	熊本市南千反畑町3-7 県総合福祉センター
	熊本県部落解放研究会	熊本市南千反畑町3-7 県総合福祉センター
	くまもと市民センター	熊本市北千反畑町1-9 古荘ビル
	セットンくまもと	熊本市黒髪2-40-1 熊本大学文学部小松研究室気付
鹿児島	日本基督教団鹿児島教会	鹿児島市上之園町23-3
	在日本朝鮮人総聯合会鹿児島県本部	鹿児島市城南町25-10
	部落解放同盟鹿児島県連合会	鹿児島市照国町17-18
	鹿児島県同和教育研究協議会	鹿児島市鴨池新町28 鴨池ハイム2-708
	鹿児島県平和運動センター	鹿児島市鴨池新町5-7-601
	真宗大谷派鹿児島別院	鹿児島市新町2-13

賛同人名簿（7月20日現在、順不同敬称略）

桑原莞爾
 岩永正剛
 飛田雄一
 堀哲郎
 福永信幸
 舟越耿一
 保村龍三郎
 久米耕治
 中土勝雅
 新井英永
 中里紀元
 柴田利明
 長谷川禎三
 大山三与
 原田まゆみ
 柴田徳義
 浦川登久恵
 大覚寺
 高田実
 脇元公明
 額額厚
 廣島正
 賀来宏
 片山富美子
 西八條敬洪
 丹下栄
 堀内隆治
 丸日照美
 金光烈
 福原孝浩
 日本と朝鮮の生活を語る会
 上河一之
 内山賢次
 金子俊恵
 伊津見七生子
 池田正枝
 坂本貴久雄
 ペゾンファ
 下寫義輔
 堀哲郎
 徐根植
 鄭鴻永
 横山篤夫
 藤田武
 薬師寺小夜子
 嶋田千恵子
 武松輝男
 坂本悠一
 村田久
 三浦巨晃
 ペトンノク
 孫大勇
 隠塚尚良
 朴宗根
 李幸宏
 小松裕
 朴容徹

下山房雄
 児玉武夫
 伊藤憲明
 大韓基督教下関教会子供礼拝
 日谷法泉
 崔正剛
 黒木彬文
 山野幸司
 岩村美佳
 野口宗親
 兼崎暉
 高木恭二
 朴美子
 東定宣昌
 舟越耿一
 植村邦彦
 蓮田善英
 新藤東洋男
 宮野由美子
 尾寄一治
 松崎涼子
 国武雅子
 岡留実友
 横山篤夫
 池田鍊二
 岡田雅宏
 金泰植
 吉原真次
 池田浩輝
 塚崎昌之
 細田美保子
 坂田嘉子
 村江美子
 住田外志江
 佐藤忠治
 奥平賢治
 江崎啓子

以上、どうもありがとうございました。

第10回朝鮮人・中国人強制連行・強制労働を考える
全国交流集会 in きゅうしゅう 資料集

発行日 1999年7月31日
編集・発行 全国交流集会九州実行委員会
連絡先 〒860-8555 熊本市黒髪2-40-1
熊本大学文学部小松研究室気付
Tel&Fax 096-342-2429
e-mail komatsu@gpo.kumamoto-u.ac.jp